

# 平成30年度 事業報告

---

～支え合い、助け合い、励ましあって、つながる福祉～

社会福祉法人 宇治市社会福祉協議会  
(コラボネット宇治)

## 平成30年度 ふりかえり

平成30年度の事業方針では、社会状況から①支え手の育成支援、②相談対応力の向上、③活動を支える財源づくり、④第4次地域福祉活動計画の策定にむけて、を重点項目として取り上げ、取り組んできました。

①支え手の育成支援では、宇治市からの補助を受け実施した「地域共生社会推進事業」の中で公募型の助成金制度を設けたり、ひきこもり支援を行っている団体からお話を伺い、実際に必要とされている支援を探りました。また、第2層生活支援コーディネーターにおいては、当会がこれまで取り組んできた「サロン」が、地域住民同士の心のよりどころとなり、「支える人が、支えられる人によって支えられている」部分を見出す場面もありました。木幡地域懇談会では、参加者から「人とのかかわりの中で良い暮らしをしたい」という意見も聞かれ、少しずつ住民主体で活動を考えるきっかけになってきている実感があります。しかしながら、支援をする人の不足や高齢化は依然解消せず、支え手の育成支援については、今後さらに地域住民とともに考えていく課題になります。

②相談対応力の向上では、一般財団法人宇治市福祉サービス公社とともに進めてきた「宇治の未来の福祉を考えるプロジェクト」をより他法人にも広げて展開を図ることで、「つながり」から対応力の向上を目指してきました。複雑化する課題の中で、丁寧に相談に応じることでより適切な機関や制度につなげていくことに努めました。また、解決が難しい課題に対して住民、福祉専門職、そのほかの機関とつながって解決を図っていくことの必要性を感じているところです。

③活動を支える財源づくりにおいては、自動販売機の設置事業を呼びかけており、平成30年度も新規で5台の設置につながりました。また、全員が「参加」することで支え合いの地域をつくるためには、住民会員募集や共同募金運動の展開もより重要であり、引き続き努力していく必要があります。

④第4次地域福祉活動計画の策定に向けては、平成30年度は策定委員メンバーの協議にのみとどまりました。第3次地域福祉活動計画で取り組んできた「うじピョンカフェ」の座談会は、木幡地域で開催をしてきましたが、第3次地域福祉活動計画のふりかえりを行うまでに至りませんでした。地域福祉の重要度が増す今、一方で福祉専門職としての当会の職員の支援のあり方、働き方についても議論が必要になってきています。地域福祉課題の解決と、時代に即した地域福祉専門職の支援のあり方を検討することが必要であり、次年度以降に、議論していくことになりました。

【アイコン表示について】各活動の財源が分かるアイコンを表示しています。



会費収入等の独自財源、基金の運用益を元にして実施する事業に表示。



赤い羽根共同募金の配分金で実施する事業に表示。



歳末たすけあい募金の配分金で実施している事業に表示。



参加者や利用者からの負担金により実施する事業に表示。



宇治市や京都府社協からの委託金や補助金、助成金により実施する事業に表示。

## 目 次

<b>第1章 寄せられる「相談」に丁寧に向き合い、仕組みづくりや支え手育成支援につなげる</b>	<b>…3</b>
1. ボランティア相談から当事者の声に向き合う	
2. ふれあい福祉センターの相談から市民の暮らしの相談に向き合う	
3. 各種貸付相談から生活の相談に向き合う	
4. 福祉サービス利用援助事業から「暮らしにくさ」の状況と向き合う	
5. 共同募金委員会等と連携した当事者の声に耳を傾け、活動を支援する	
<b>第2章 関係機関と連携し、安心して暮らせるしくみづくり、支え手の育成支援に取り組む</b>	<b>…15</b>
1. 学区福祉委員会等の活動の支援と活動の支え手の育成支援	
2. 宇治ボランティア活動センターとの協働によるボランティア活動の啓発と支え手の育成支援	
3. 住民と一体で取り組む一般介護予防事業 介護予防普及啓発事業（B型リハビリ教室）の実施	
4. Hot! ふれあいサロン活動を媒介にした地域づくり	
5. 生活支援コーディネーター業務（受託）と連携した地域活動支援の展開	
6. 各種機関と連携した中学生の学習支援事業～うじピヨンの学び舎～の展開	
7. NPO法人と連携した当事者による子育て支援事業	
8. 障がいのある人への支援	
9. 市民参加による宇治市災害ボランティアセンターの運営	
10. 高齢者の活動支援としての宇治市老人福祉センターサークル協議会への運営協力	
11. 各団体の力を結集して盛り上げる「宇治福祉まつり」の開催	
12. 異業種とのネットワークの構築	
13. 多様な世代への福祉の働きかけ	
14. 社会福祉法人等の公益的活動と連携した地域福祉課題解決に向けたしくみづくり構築	
15. 宇治市福祉サービス公社との共同プロジェクトなどの関係機関と連携による地域課題解決に向けたしくみづくりの推進	
16. そのほか関係機関のネットワークへの参画	
<b>第3章 法人運営の強化</b>	<b>…59</b>
1. 会員募集の増強	
2. 1㎡のできる社会貢献（自動販売機設置事業）の推進	
3. 寄付金の受け入れと「ふれあい基金」「ボランティア基金」「災害時支援活動準備金」の適正運用	
4. 宇治市共同募金委員会の運営と赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金運動への協力	
5. 会務の運営	
6. 多角的な広報	
7. 地域福祉活動への感謝の気持ちを伝える「新春福祉のつどい」の開催	
8. 地域福祉活動の拠点としての宇治市総合福祉会館の管理運営（指定管理事業）	
9. 時代の変化に対応した取組みを進める体制の検討	
<b>第4章 地域福祉推進のための基盤となる第4次地域福祉活動計画の策定</b>	<b>…69</b>
1. 当会の「組織強化」計画の策定の検討	
2. 第3次地域福祉活動計画のふりかえりと第4次の地域福祉推進のための計画の策定	
<b>巻末資料 月イチうじピヨンの〇〇な話</b>	<b>…71</b>

# 第1章 寄せられる「相談」に丁寧に向き合い、仕組みづくりや支え手育成支援につなげる

当会には、様々な形で住民や専門機関から相談が寄せられます。その相談に丁寧に向き合い、ニーズ把握と解決に努めました。

## 1. ボランティア相談から当事者の声に向き合う



ボランティア相談から寄せられるニーズを、宇治ボランティア活動センターと共有しながら解決に努めてきました。ボランティアの力を必要としている人、団体にはボランティア活動センターの広報力（情報紙パートナー発行等）を活かした支援やボランティアマッチングサロンにつなぐことでサポートの輪を広げました。

具体的には、ひきこもりがちな青年がボランティア活動を通して社会参加の機会を希望される相談には、宇治ボランティア活動センターの運営委員が多く携わる取組みにおいて、さりげない見守りとサポートの中で参加いただきました。その結果、青年の自信にもつながり、今後の継続参加に期待が持てました。宇治ボランティア活動センターの運営委員にも、良い刺激になりました。また、福祉施設入所者の運動のサポートという相談は、ボランティアでの対応が難しかったのですが、当会の既存の関わりで、民生児童委員やNPO法人等と連携して支援の組立てにつなげることができました。

課題としていたボランティア個人登録者へのアプローチを検討することはできず、宇治ボランティア活動センターの情報紙送付によるボランティア情報の提供のみに留まりました。情報紙からボランティア活動につながる人も固定化しているが現状があります。

（担当職員による月別ボランティア相談件数）

（単位：件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
13	15	25	27	11	18	10	10	20	17	12	22	200

（担当職員によるボランティア相談件数の推移）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
件数	211	173	200

（相談者の属性（所属））※複数者（他属性）相談あり

（単位：名）

個人	当事者団体	登録団体	施設	病院	学校	福祉関係機関	行政	その他	合計
100	1	23	20	0	4	36	6	15	205

(相談内容) ※複数内容あり

(単位：件)

ボランティアをしたい	ボランティアを求む	問い合わせ	合計
59	66	88	213

(相談対応) ※複数回答有

(単位：件)

「ボランティアをしたい」への対応	件数	「ボランティアを求む」、 「問い合わせ」への対応	件数
ボランティア団体・施設・他機関を紹介	5	個人等のボランティアへの調整	1
ボランティアセンター-団体を紹介	12	ボランティアグループへつなぐ	39
情報提供	45	制度を紹介	0
運営委員会対応（マッチングカン等）	1	広報	0
制度紹介	1	他機関へつなぐ	6
個人登録	30	継続（保留）	0
そのほか	3	情報提供	21
		運営委員対応	3
		V調整取り下げ	0
		対応できず	1

## 2. ふれあい福祉センターの相談から市民の暮らしの相談に向き合う



専門相談のほか、福祉なんでも相談などの対応からニーズ把握に努め、相談者の解決に寄り添いました。福祉なんでも相談は、件数は減少していますが、1回の相談で終わらず複数日にわたって対応していることが多くなっています。法律相談は、平成30年度から1日8名を上限の予約制に変更しましたが、大きな混乱はありませんでした。

(各相談の相談件数の推移)

(単位：件/日)

	福祉なんでも 相談	法律 相談	登記相 談	年金・社会 保険相談	多重債 務相談	成年後見 相談	合計	開設日
平成28年度	190	404	115	3	18	13	743	243
平成29年度	230	386	105	3	9	9	742	241
平成30年度	98	359	139	4	24	9	633	244

## 3. 各種貸付相談から生活の相談に向き合う



生活福祉資金やくらしの資金等の貸付事業において、必要に応じて貸付制度の活用を進めてきました。また、貸付に至らない相談においても、生活困窮者自立支援法の窓口や生活保護の窓口などの行政や関係機関と連携し、寄り添いながら解決に結びつけていくように努め

てきました。

## (1) 生活福祉資金貸付の実態

生活福祉資金では、暮らしていく上で一時的に資金が必要になった場合、世帯に貸付を行っています。その多くが教育支援資金で、1月以降の相談が多くなる傾向です。また、平成29年度に制度が改正されたことにより、大学授業料の在学中の貸付の事務及び説明に時間を要することが増えています。

### (生活福祉資金貸付実施実績)

資金種別		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)
総合支援資金	生活支援費	0	0	0	0	0	0
	生活支援費(増額)	0	0	0	0	0	0
	一時生活再建費	0	0	0	0	0	0
	住宅入居費	0	0	0	0	0	0
臨時特例つなぎ資金		0	0	0	0	0	0
福祉資金	生業	23	5,985,664	23	8,324,751	15	10,859,386
	技能習得						
	療養						
	一般福祉						
	緊急小口	12	1,130,000	12	1,030,000	2	183,000
教育支援資金	教育支援費	65	17,853,000	52	16,972,000	61	32,033,000
	就学支度費	62	29,327,000	47	22,282,000	54	19,795,000
不動産担保型生活資金		0	0	0	0	0	0
合計		162	54,295,664	134	48,608,751	132	62,870,386

## (2) 暮らしの資金貸付事業の実施

年に2回(夏期:7月、冬期:12月)に低所得者世帯を対象に暮らしの資金の貸付(10万円限度)を実施しています。また、5月、9月、1月の年3回、残額通知と督促状を発行して、貸付者への連絡を行っています。年々貸付件数が減少していましたが、前年度は同件数となっています。貸付者の多くがひとり親家庭や高齢者の独居世帯などであり、保証人等を必要としない本貸付を活用しながら生計の立て直しを図っているケースも見受けられます。

(くらしの資金貸付件数)

(単位：件)

年度	夏期	冬期	合 計		貸付事由						
			件数	金額 (円)	生活費	医療費	借金返済	失業	交通事故	養育	その他
平成 28 年度	10	16	26	2,600,000	16	3	1	4	0	0	2
平成 29 年度	8	14	22	2,150,000	18	1	0	1	0	0	2
平成 30 年度	8	14	22	2,080,000	20	0	0	0	0	0	2

4. 福祉サービス利用援助事業から「暮らしにくさ」の状況と向き合う



福祉サービス利用援助事業の相談から、必要に応じて契約、支援を行いました。成年後見制度の利用促進に関する法律にかかる行政との調整については、情報収集に努めました。

(1) 契約状況

(実契約者数) 生・生活保護世帯 非・非課税世帯 他・その他の世帯 (単位：名)

区分	認知症 高齢者等			知的 障がい者等			精神 障がい者等			その他			合計		
	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他
平成 28 年度	13	4	1	1	4	0	14	3	0	0	0	0	28	11	1
平成 29 年度	13	2	2	0	5	1	13	9	0	0	0	0	26	16	3
平成 30 年度	8	1	1	1	6	1	9	16	0	0	0	0	18	23	2

(新規利用者) 生・生活保護世帯 非・非課税世帯 他・その他の世帯 (単位：名)

区分	認知症 高齢者等			知的 障がい者等			精神 障がい者等			その他			合計		
	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他
平成 28 年度	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0
平成 29 年度	2	0	2	1	0	1	2	2	0	0	0	0	5	2	3
平成 30 年度	2	1	0	1	1	0	2	6	0	0	0	0	5	8	0

※平成 30 年度新規契約者（精神障がい、生活保護世帯）のうち、1 名は成年後見人との再契約者

(2) 相談調整等の件数の推移

支援開始をして、生活支援員の定期的な訪問のみならず、当会への電話での不安の訴えなどがあるケースも多くあります。そのような場合には、関係者と協議の場を持ち、支援方針等を統一しながら連携と互いの役割の確認をしながら関わっています。

## (相談・連絡調整活動の実施状況)

(単位：回)

	認知症 高齢者等	知的 障がい者等	精神 障がい者等	その他	合計
平成 28 年度	1,105	379	3,834	13	5,331
平成 29 年度	952	280	3,245	5	4,482
平成 30 年度	297	270	1,965	7	2,539

## (3) 生活支援員の資質向上と相互交流・啓発による支援員増員

福祉サービス利用援助事業において「生活支援員」の養成や知識の研鑽により、利用者への相談援助を学ぶための生活支援員新任研修および現任研修（いずれも京都府社会福祉協議会主催）への参加を呼びかけました。宇治市より新任研修には6名参加、現任研修には8名が参加をしました。

## (城陽市社会福祉協議会主催 生活支援員サポート研修への参加)

日時	平成30年10月24日（水）13：30～15：30
場所	城陽市立福祉センター
対象	現任生活支援員
参加者	生活支援員9名（当会より実習生2名も参加）
参加して	「利用者の支援に対する心構え」をテーマに講演がありました。その後、宇治・城陽・京田辺で活躍している生活支援員同士の意見交換の時間も持たれました。 日頃感じている支援の仕方やあり方等について、生活支援員同士での交流があったことは、宇治から参加された生活支援員からもいい刺激になった等、好評でした。宇治でも支援員同士の交流の機会を求める声もいただきました。

## (NPO 法人山城権利擁護ネットワーク主催 福祉サービス利用援助事業の啓発)

日時	平成30年12月22日（土）11：00～12：00
場所	ゆめりあうじ
対象	山城権利擁護ネットワーク主催 法人後見サポーター養成講座 受講者
実施して	事業の概要や理念について説明をしました。本事業の生活支援員の活動やその意義等についても話をし、活動への参加を呼びかけましたが、ここでは新たな支援員の発掘にはつながりませんでした。 主催者とは、互いに事業の協力者を増やすことについて、相互に情報を共有しあうこと等、相乗効果を図ることについて、意見を一致させています。



#### (4) 山城北中部広域社協合同講座（研修や講座等の企画・実施）

福祉サービス利用援助事業を啓発する機会と、専門員の資質向上を目的に、山城北中部の7市町村社協（宇治市・城陽市・久御山町・八幡市・京田辺市・井手町・宇治田原町）と京都府社協との協働で企画を立て、研修や講座等を実施しました。

##### （視察研修）

日時	平成30年 9月6日（木）
場所	ハートピア京都、京都家庭裁判所
目的	福祉サービス利用援助事業の専門員の資質向上
内容	法テラス京都との意見交換、京都家庭裁判所見学等
参加者	各市町村社協専門員 府社協担当職員
実施して	当会専門員も企画段階から参加していましたが、当日は当事業の支援のため、参加できませんでした。 本取組みは、一市町村社協単独で企画するにはむずかしく、他市町村社協と連携して取り組んでいるからこそそのメリットがあります。そのメリットを活かし、福祉サービス利用援助事業の専門員の研鑽に努めます。

##### （地域生活支援サポーター養成講座）

日時	平成31年 2月6日（水）13:30～16:00
場所	文化パーク城陽
目的	当事業に携わる生活支援員の資質向上
内容	生活支援員向けの講座と意見交換 （現況報告） 京都府内の福祉サービス利用援助事業利用者の現況について 講師 きょうと高齢者障害者生活支援センター （講義と意見交換） その人らしさを活かせる支援とは～利用者和生活支援員の付き合い方～ 講師 武庫川女子大学 准教授 堀 善昭 氏
参加者	各市町村社協生活支援員（宇治市からは8名の生活支援員が参加）
実施して	山城北中部圏域で当事業に携わる生活支援員を対象に、講義と生活支援員同士の意見交換の時間を設けました。支援が長期化、困難化する事例が増えていることから、その人らしさを大切にできる理念や援助方法について、講義をいただきました。意見交換の時間も十分に持たれましたが、生活支援員からは交流の時間を求める声が多く聞かれました。生活支援員同士で事例や意見交流をする機会の大切さを改めて感じました。

## 5. 共同募金委員会等と連携した当事者の声に耳を傾け、



### 活動を支援する（新規・機能拡充）

当事者団体や、当事者の声、意見を聴き、課題解決のために活動をしている団体へ宇治市共同募金委員会を実施する「赤い羽根コラボ助成」と連携協働して支援しました。また、宇治市からの補助による「宇治市福祉未来基金地域共生社会推進事業（新規）」や当事者の声を活かした介護者リフレッシュ事業を始めとする取組みを実施しました。

#### （1）赤い羽根コラボ助成金

赤い羽根共同募金の配分金を活用し、当会の助成金制度として、平成26年度より「赤い羽根コラボ助成金」制度を実施してまいりました。平成30年度からは、宇治市共同募金委員会が直接募集・審査・助成を行う仕組みに変更となりました。実際の募集事務等は募金委員会の事務局を併せ持つ当会が引き続き担っています。また、助成金相談を入口にしながら、福祉活動団体の状況把握や課題についての情報収集を行うことが当会の役割でもあり、活動や事業の原資となる共同募金との運動の連動性を大切にして相談対応をしています。

助成金の仕組み自体は大きな変更はなく、事業助成に加え、運営助成、新規事業助成などで団体の幅広い活動へ支援できるよう、募集を行いました。

助成金の存在が広く知れ渡ってきているのか、平成29年度に引き続き、新たな団体からの相談や申請があることについては評価できる一方、予算（募金の配分金）は大きく増加が見られないことから、否決となった申請も出てきています。運営助成への申請が年々増加してきています。限られた予算の中ではありますが、宇治市内での新たな福祉活動を育てること、既存の団体運営のサポートを行うことへの課題を感じており、地域福祉推進における課題解決を団体とともに図っていくことが求められています。

#### （赤い羽根コラボ助成金の助成状況）

年度	申請額 (円)	決定額 (円)	申請事業件数		決定件数	新規団体
平成 28 年度	3,277,000	3,277,000	運営費	8	8	0
			事業費	32	32	0
			新規事業	3	3	2
平成 29 年度	3,704,500	3,637,000	運営費	11	11	3
			事業費	67	67	2
			新規事業	6	6	5
平成 30 年度	3,858,000	3,481,000	運営費	16	15	5
			事業費	67	65	2
			新規事業	6	3	2

(赤い羽根コラボ助成金の助成状況)

	団体名	申請内容	助成決定額(円)
1	わあわあネット	ミニ交流会	100,000
		合同交流会	
2	宇治市視覚障害者協会	交流事業※	150,000
		研修旅行	
		点訳ボランティア養成講座	
3	宇治市肢体障害者協会	運営助成	170,000
		市民とふれあい交流会	
		パソコン講習会	
		卓球バレー交流会	
4	御蔵山ゆう輪蔵ぶ	交流会(わいわい倶楽部)	39,000
5	NPO 法人よろず相談所「たよりになる輪」	たよりになる輪音楽会	100,000
		精神保健サロン	
6	京都府原爆被災者の会宇治支部	会員交流会及び健康相談	59,000
		被爆体験を語る・語り部活動	
7	宇治手話サークル太陽	①交流会 ②新春交流会	150,000
		社会見学	
		①学習会 ②一日研修	
8	特定非営利活動法人 カフェ頼政道	カフェ頼政道日帰りバス旅行	50,000
9	ことのは	障害を持つ親、当事者のつどい・勉強会※	60,000
10	宇治リーディングボランティア	運営助成	170,000
		音訳ボランティア養成講座事業	
		リスナーとURVとの交流事業	
		視覚障害者向け各種情報の音訳事業	
11	御蔵山わんぱく親子の会	運営助成	70,000
		御蔵山わんぱく親子の会	
12	宇治市連合喜老会	シルバーリーダー研修会	150,000
		友愛活動	
		機関誌発行	
13	NPO 法人わくわく^kyoto^	SPACESHOWTIME4	50,000
14	伊勢田わんぱく親子の会	運営助成	70,000
		スキー・雪遊び学習	
15	宇治難病患者連絡会	難病患者 家族交流会	150,000
		難病患者、相互家族交流会「体験談講演」	
		難病患者、家族交流会「楽しい手作り木工教室」	
16	精神保健サロン「元気です会」	精神障がい者 クリスマス会	150,000
		精神障がい者 野外リレーション事業	
		精神障がい者 サロン運営事業	
17	宇治市障害児・者父母の会	レクレーション	100,000

		音楽療法	
18	子供の成長を見守る会	運営助成 個人の自立支援活動事業（ダンス）	70,000
19	アウンジャ	バザー参加 同行支援	100,000
20	要約筆記サークル「エコー」	難聴者コミュニケーション訓練 中学校福祉体験学習 機関紙「エコー便り」発行	134,000
21	宇治市難聴者協会	手話勉強会 聞こえの広場 機関紙「はと」の発行	150,000
22	要約筆記サークル「やまびこ」	運営助成 聴覚障害者と要約筆記の啓発 要約筆記の研修 聴覚障害者及び団体への支援	95,000
23	グリーンボランティア「あめノチ花」	地下鉄六地蔵駅前広場の花壇の管理※	73,000
24	ユニ宇治マンション自治会	ミニサロン	28,000
25	宇治おもちゃ箱	運営助成	20,000
26	炭山地区まちづくり協議会	運営助成	20,000
27	炭山区町内会助け合い移動支援事業をすすめる会	運営助成	20,000
28	宇治市障害者スポーツ大会実行委員会	第42回宇治市障害者スポーツ大会	50,000
29	宇治市子ども会連絡協議会	新春子ども大会 球技大会 研修活動	150,000
30	宇治市介護者（家族）の会	運営助成 サロンせせらぎ（地域のつどい） 親睦交流会（介護体験の発表とつどい） 会報「ほのぼの」、暑中見舞い、年賀状の送付	170,000
31	まんぷく会	地域交流懇談会	50,000
32	宇治市連合母子会	歳末ひとり親家庭ふれあい	50,000
33	コンタクトパーソン「結」	運営助成	20,000
34	宇治地区保護司会	社会を明るくする運動・街頭啓発活動・啓発標語表彰式	31000
35	字幕つけサークル「トトロ」	運営助成 字幕制作及び字幕つき上映会	25,000
36	南陵町高齢者サロンの委員会	運営助成	20,000
37	宇治市障害者福祉施設連絡協議会	オープンカフェうじ市役所ロビーほっとショップ うじ・はんどめいどフェア	100,000
38	宇治市父子会	ひとり親家庭ふれあいバーベキュー	50,000

39	心ぽかぽか和みの会	見守り訪問事業	30,000
40	宇治市ろうあ協会	運営助成	167,000
		やまぶき事業	
		社会見学	
		第19回敬老会	
41	こはタウン	運営助成	70,000
		SDG's 体験ゲーム	

(表中の※は新規事業助成)

## (2) 宇治市福祉未来基金地域共生社会推進事業(新規)

平成30年度は宇治市の補助を受け、「宇治市福祉未来基金 地域共生社会推進事業(地域共生パイロット事業と公募型地域福祉活動支援事業)」等と連携して課題解決の一助を検討しました。

地域共生パイロット事業では、当事者の声に寄り添うことを念頭に、ひきこもり当事者、当事者家族、支援団体との現状の聴き取りを行いました。

当事者家族の語りを新春福祉のつどいで発信することで、当会事業への理解、新規相談につながるなど福祉活動の啓発効果が生まれました。社会福祉問題の顕在化作業は、当会の意義でもあると再認識できました。

宇治市福祉未来基金を活用した地域共生社会推進事業「公募型地域福祉活動支援助成金」については、①子どもの貧困、②ひきこもり、③地域福祉活動の担い手確保を対象とする事業に対し、助成金を交付しました。助成を受けた団体は、立ち上げたばかりの団体などこれから基盤を整えて活動をしたい団体もありました。今後も、有効活用できる方法を宇治市と検討を行うとともに、広報等にも力を入れていきたいと考えています。

### (宇治市福祉未来基金 地域共生社会推進事業「公募型地域福祉活動支援助成金」交付実績)

団体名	事業名称	申請内容	交付額 (円)
青年の社会参加を応援する会 実のり	社会から孤立している 若者たちのための在宅 での仕事づくり	在宅での仕事の創出	150,000
子ども部会子どもサロン	不登校児の子どもサロン	不登校児童の居場所	54,000
グリーンボランティア あめノチ花	宇治市民によるグリー ンボランティアを通じ たつながり	つながりづくり	27,000
サロンローズマリー	ご近所カフェ	集いの場交流	38,000
夢たね発見ラボ	夢たね発見ラボ	居場所運営、相談、子ど もの育ち、自律サポート	150,000

(合計 419,000円)



(新春福祉のつどいでのパネルディスカッション)

### (3) 在宅高齢者介護者リフレッシュ事業の実施

平成29年度までは、市内の要介護3以上の高齢者を介護する人たちを対象に年2回の取り組みでしたが、平成30年度から、市内の要介護認定2以上の高齢者を在宅で介護されている人たちのリフレッシュと、介護者同士の相互交流を目的に年6回開催することになりました。

交流会企画として年2回・レクリエーション企画年4回を実施し、参加対象者は、それぞれの企画で各1回までの参加が可能としました。平成29年度実施したアンケートや参加する人たちからの声の中に、「要介護の家族を置いて、自分だけではなかなか参加できない」という意見などもあり、交流会企画には、要介護者の参加もいただけるように実施しました。

全企画において、宇治市介護者（家族）の会の参画のもと、交流会でのグループでの司会進行はじめ様々な協力をいただいて、実現できました。バスで外出する企画以外は、試験的に、要介護者の方も参加いただけるように条件を整えるようにしました。京都文教大学で開催した交流会企画では、会場アクセスを考慮して送迎車両を運行しました。

平成30年度は、参加対象者の対象要件の拡大に伴い、お知らせは、市政だより・社協だよりへの掲載、チラシを介護事業者へ郵送しての案内、また、公共施設での配架などの方法を取りました。これらの広報のみでは、参加対象者の方々へ情報が届きにくかったためか、参加者数が伸びないという結果になりました。



(実際に介護体験のある講師による介護食に関する講義)

## (宇治市在宅高齢者介護者リフレッシュ事業)

(人数;名)

企画種別	回数	開催日	内容	定員	参加者数
交流会 企画	第1回	平成30年 7月11日(水)	京都文教大学よさこいサークル風竜舞伝の演武、小グループでの学生を交えての交流	50	9
	第2回	平成31年 1月30日(水)	京都文教大学のサロン・ド・パドマで、京都高齢者情報相談センター所長の内山貴美子氏の「高齢者のすまい」についての講演、京都文教大学の世界民族音楽倶楽部「民音之会」のミニコンサートと参加者交流	50	10
レクリエーション 企画	第1回	平成30年 9月12日(水)	京都認知症総合センター内認知症カフェほうおうにて、介護者であり、栄養士の今井典子氏を迎え、「知って負担を軽く!! 介護食づくり」 ※要介護者1名参加あり	15	6
	第2回	平成30年 10月18日(木)	「バスでよしもと祇園花月へ 大いに笑ってリフレッシュ」と車中交流会	40	23
	第3回	平成30年 11月13日(火)		40	21
	第4回	平成30年 12月13日(木)	京都認知症総合センター内認知症カフェほうおうにて、介護者であり、栄養士の今井典子氏を迎え、「知って負担を軽く!! 介護食づくり」	15	8
				210	77

## 第2章 関係機関と連携し、安心して暮らせるしくみづくり、支え手の育成支援に取り組む

当会の相談事業を中心にして寄せられた地域課題について、解決していけるように「支え手の支援と育成」、「解決のためのしくみ」を構築するように努めました。その取組みには、宇治市福祉サービス公社や市内の社会福祉法人だけでなく、様々な事業所、職種や住民と協働によって取組みを進めました。

### 1. 学区福祉委員会等の活動の支援と活動の支え手の育成支援



「小地域だからできる」活動には、住民の主体的な参加と、少子高齢化が進む中で地域に潜在する課題の解決の糸口があります。そのために、学区福祉委員会や住民主体で行う活動への支援、協働での活動等を行っています。

#### (1) 学区福祉委員会への支援・協働

地域担当者4名で宇治市内21の学区福祉委員会と1地区社会福祉協議会（西小倉学区・北小倉学区・南小倉学区）を担当して、各小学校区の地域福祉活動が発展するようコーディネーターとしての支援活動を行っています。

#### (学区福祉委員会支援のための各種補助金)

種類	目的	補助金額
①福祉活動費	学区福祉委員会の運営費、活動費	各小学校区の市社協会費・寄付金の20%及び事業所会費の40%を交付
②事業費補助金	地域ごとに特色のある地域福祉活動にかかる活動費	1学区あたり、4事業実施で上限175,000円
③一人暮らし高齢者訪問活動事業補助金	月1回以上の訪問や生活支援時に配布する記念品等に要する費用	対象者1人につき年額1,000円
④一人暮らし高齢者給配食事業補助金	一人暮らし高齢者等への声かけ、見守りを兼ねた給配食活動の費用	1食あたり350円
⑤歳末たすけあい「ふれあい」事業補助金	年末、年始に行われる見守り活動、住民交流事業等に要する費用	対象者1人につき年額1,000円 または1学区上限130,000円



(学区別一人暮らし高齢者等訪問事業)

学区名	訪問実績対象者数 (名)		
	28年度	29年度	30年度
木幡	71	59	-
宇治	183	184	174
岡屋	98	96	96
南部	144	140	143
菟道	190	175	167
菟道第二	144	143	151
神明	177	173	175
大開	114	111	113
大久保	21	26	27
西大久保	114	102	98
伊勢田	125	109	127
小倉	233	206	207
西小倉地区社協	104	95	85
槇島	204	202	202
訪問対象者数	1,922	1,821	1,765

(学区別一人暮らし高齢者等給配食事業)

学区名	給配食実績数 (食)		
	28年度	29年度	30年度
御蔵山	165	154	162
木幡	146	114	-
宇治	1,257	1,042	985
岡屋	185	166	138
南部	210	220	317
三室戸	618	613	557
菟道	143	107	135
菟道第二	227	309	252
神明	476	542	600
大開	438	469	458
大久保	548	572	580
西大久保	428	-	-
平盛	128	152	180
伊勢田	134	138	135
小倉	494	545	589
西小倉地区社協	1,993	1,917	1,721
槇島	1,209	1,200	1,338
北槇島	103	143	139
合計	8,902	8,403	8,286

## (2) 住民主体活動への支援・協働

京都府社会福祉協議会の助成金制度「地域ひとつなぎ事業」では、高齢者のみならず、小地域の地域住民による見守り活動に対しての助成を行っています。当会はこの助成金を宇治の小地域見守り活動に対して活用しました。

### (平成30年度 地域ひとつなぎ事業の助成実績)

	団体名	戸別 訪問	配食	電話	その他	助成額(円)
1	神明学区福祉委員会	○	○	○		37,600
2	開地区喜老会	○	○	○		18,800
3	西岡屋喜老会	○	○	○		18,800
4	アルスシルバー会	○	○	○	○	18,800
5	大和田もみじ会	○		○	○	18,800
6	おりさか悠々クラブ	○	○			28,200
7	西大久保自治喜老会	○				28,200
8	槇島東喜老会	○				18,800
9	NPO 法人善法雇用促進協議会	○				37,600
10	伊勢田喜老会	○		○	○	18,800
11	小倉第一喜老会	○		○		18,800
12	小倉第二喜老会	○		○	○	18,800
13	南陵町喜楽会	○	○	○		18,800
14	砂田喜老会	○	○	○		18,800
15	名木喜老会	○				18,800
16	北堀池ローマンクラブ	○	○	○	○	18,800
17	西小倉寿喜老会	○		○	○	18,800
18	一里塚喜老会	○	○	○		18,800
19	神明栗駒喜老会	○		○		18,800
20	心ぼかぼか和みの会	○		○		28,200
21	宇治学区福祉委員会	○	○	○		37,600
22	南部学区福祉推進委員会	○		○	○	37,600
23	宇治市傾聴ボランティアサークル「かかし」	○			○	18,800
24	きらきらクラブ	○	○	○	○	28,200
25	中宇治喜楽会	○		○	○	28,200
計	25 団体	25	11	19	10	592,200

### (3) 木幡学区福祉委員会解散後の木幡地域へのアクションについて

木幡学区福祉委員会は、平成29年度末をもって解散されました。当会としては地域福祉を推進する上で、地域で起こっている福祉課題について地域住民と共に考え、共に解決を目指す場は大切であると考え、木幡地域懇談会を開催してきました。懇談会では地域住民としての気づきや想いを語り合い、他の活動事例からの学び合いを積み重ねました。回を重ねるにつれ、参加者同士のつながりも深まり、木幡地域の中で互いに頑張っていこうという声も出されるようになってきています。当会では懇談会を通して住民の中で地域福祉について考える機運が高まりつつあると捉え、今後も継続して懇談の場を持ちながら展開の方向性を模索していきます。

#### (木幡地域懇談会開催状況)

回	実施日時	実施場所	参加者数
Part2	平成30年7月28日(土) 10:00~12:00	六地藏公会堂	15名
内容	動画上映(宇治市内のサロンから) 「わたし」と「あなた」の思いが重なるとき～「思い」のたすきリレー		
Part3	平成30年12月9日(日) 13:30~15:30	木幡地域福祉センター	11名
内容	「身近な地域で行われている福祉活動」 ・駅前花壇×まちづくり、つながりづくり ・散歩×夜回り ・ラジオ体操×地域づくり		
Part4	平成31年3月16日(土) 10:00~12:00	木幡地域福祉センター	11名
内容	知るは側(そば)が大事～木幡地域活動マップづくり～		



(part2では、木幡地域のサロンを含めた動画を見たほか、part3では話題提供から話し合いを実施)

### (4) 学区福祉委員会連絡協議会への支援

学区福祉委員会連絡協議会(以下、学区連協)の役員会(3回)や代表者会議(3回)の運営を支援し、運営費助成を行いました。また、学区連協事務局として、下記の事業を取り組みました。

また、外部団体（宇治市要保護児童対策協議会、宇治市共同募金委員会、宇治市地域福祉推進委員会）へ委員を選出しています。

また、学区福祉委員強化月間（2月1日～3月31日）として、ポスター179枚、チラシ1,911枚、市政だよりの掲載（2月1日号）、FMうじ出演（2月18日）、健康長寿フェスでのポスター展示・チラシ配布（2月23日）、社協だより（3月15日号）で福祉委員募集掲載を行いました。

### （学区福祉委員会交流研修会）

実施日	平成30年9月1日（土）Ⅰ部（研修） 10:00～12:00 Ⅱ部（交流会） 12:20～14:00
実施場所	宇治市産業会館 多目的ホール
実施目的	福祉委員会活動に活かす知識を得るとともに、学区福祉委員の横のつながりの増強及び親睦を図り、今後の学区福祉委員活動の発展に寄与する。
参加者	Ⅰ部（研修） 19学区55名 喜老会2名 事務局9名（実習生含む） Ⅱ部（懇親会）18学区49名 喜老会2名 事務局9名（実習生含む）
内容	Ⅰ部 特殊詐欺の被害から市民をまもる 講師；京都府山城広域振興局 消費生活相談窓口 消費生活相談員 消費教育推進員 木戸 明美 氏 ～福祉委員募集の集合写真撮影～ Ⅱ部 交流会
成果	Ⅰ部講演で配布された資料をもとに、各学区福祉委員会の幹事会等で報告されているところもありました。グループワークでは詐欺にあった当事者の気持ちを想像してみるなどの一歩踏み込んだ研修ができました。 Ⅱ部交流会では、他学区との交流を促すために、できるだけ同一学区同士の同一テーブルを避けた座席配置としました。また各学区の広報紙を会場内に設置したことで、広報紙をもとに相互の取組み事業について積極的な意見交換が行われる様子が見られました。



（福祉委員交流研修会の様子）

(第7回きょうと地域福祉活動実践交流会(京都府版サミット))

実施日	平成31年2月16日(土) 12:30~16:30
実施場所	生涯学習施設 ガレリアかめおか
実施目的	京都府内の地域福祉活動の実践を共有し、今後の活動に生かしていく。
参加者	16学区29名他、喜老会、事務局(宇治市地域福祉課、当会)計36名
内容	1.基調講演(13:00-13:45)「地域づくりはみんなの力で」 講師：華頂短期大学准教授 名賀 亨 氏 2.活動交流(13:35-15:25) 地域福祉活動ポスター(パネル)展示交流 3.クロージング(16:15-16:30)「地域のファンをつくろう」 講師：華頂短期大学准教授 名賀 亨 氏
成果	宇治市の車両4台に分乗し会場まで向かいました。名賀氏による講演では、ペン回しの遊びも交えながら困っている人が近くにいたら助けたいという心理や、実践されている美山町での学生ワークキャンプなどの紹介を通じて活動が継続する秘訣をご講義いただきました。ポスター展示交流は約50団体が展示されており、活気に溢れていました。宇治市内では地域性の違いなどで共有できにくかった課題(山間部、住宅密集地)なども、府内全域から多くの活動事例が集まっていたことで、より自らの地域特徴に近い活動内容を学ぶ機会になった方もいました。

(福祉委員活動に関する研修)

実施日	平成31年3月8日(金) 13:30~15:30
実施場所	宇治市総合福祉会館 大広間
実施目的	福祉の保険研修会
参加者	13学区26名 事務局1名
内容	福祉の保険の基礎知識 保険の種類(ボランティア保険、行事保険、まごころワイド)説明 事例紹介・質疑応答
成果	日ごろから学区福祉委員会ではボランティア保険等に参加し、活動中のケガや事故に備えています。今一度、補償の範囲や条件を確認することで、より安心して福祉活動に取り組めることを目指し設定しました。 質疑応答では積極的に手が上がり、実際の学区の活動事例に当てはめて、保険の掛け方、考え方に間違いがないかを確認する参加者が多くいました。

## 2. 宇治ボランティア活動センターとの協働によるボランティア活動の啓発と 支え手の育成支援

ボランティア相談から寄せられるニーズを、宇治ボランティア活動センターと共有しながら解決に努めました。

### (1) 宇治ボランティア活動センター運営委員会のかかわり

宇治ボランティア活動センターでは、事前に役員会で議論を整理したうえで、運営委員会に諮る体制を取っており、毎月役員会と運営委員会が定例開催されています。当会事務局からも職員が1名、運営委員として運営に参加し、ボランティア活動センター宛の文書の受付や他機関からの依頼事項の伝達、情報提供、各種申請手続き、運営委員間の連絡調整等を行ってきました。住民との協働運営を軸に取組みを進めており、運営委員の主体的なかかわりを支援することや、当会の取組みへの参加協力等から地域福祉推進のためにパートナーシップで取り組んできました。



(宇治福祉まつりで初登場のうっちー)



(健康長寿サポーター養成講座のブース参加)



(健康長寿フェスでのブース)

(宇治ボランティア活動センターの運営委員会との協働での取組み概要)

実施日(頻度)	事業名	実施場所
毎月1回	役員会	総合福祉会館
毎月1回	運営委員会	総合福祉会館
毎月11日	イエローシートキャンペーン	イオン久御山
年6回	情報紙「パートナー」発行(奇数月)	総合福祉会館
年6回	ボランティアマッチングサロン (奇数月第2日曜日)	総合福祉会館
年2回	セカンドライフ講座	生涯学習センター
年1回	ボランティア発掘(活動紹介冊子更新)	総合福祉会館
6月25日(月)	団体・個人登録者会館清掃交流	総合福祉会館
6月27日(水)	宇治市健康長寿サポーター養成講座 「やりたい活動を見つけよう」ブース参加	生涯学習センター
9月6日(木)	視察研修:東近江市社会福祉協議会 東近江市ボラセン,中野地区ボラセンの取組み	滋賀県東近江市 中野がイルツハウス
11月4日(日)	宇治福祉まつり(ボランティア相談・ステージ発表・うちー披露)	総合福祉会館一帯
11月20日(火)	宇治市健康長寿サポーター養成講座 「やりたい活動を見つけよう」ブース参加	西小倉地域福祉センター
11月30日(金)	宇治市生活支援体制整備事業 宇治市支え合いの仕組みづくり会議委員参画	総合福祉会館
12月1日(土)	運営委員研修	総合福祉会館
1月26日(土)	新春福祉のつどい うちー披露・PR	パルティール京都
2月16日(土)	第7回きょうと地域福祉活動実践交流会 ポスター展示、うちー披露・PR	ガレリアかめおか
2月19日(火)	視察研修:各務原市社会福祉協議会 助け合い活動の実践	岐阜県各務原市
2月23日(土)	宇治市健康長寿フェア2019 パネル展示参加	生涯学習センター
3月9日(土)	第21回バリアフリー映画上映会「星の降る町」	生涯学習センター
3月17日(日)	第10回宇治ボランティアフェスティバル &おもいの駅伝	総合福祉会館
年間	ゆるキャラ(うちー)制作(審査・制作者選定・運用検討)	総合福祉会館
年数回	共同募金への協力	総合福祉会館他
年数回	宇治市災害ボランティアセンターへの参画	総合福祉会館

3. 住民と一体で取り組む一般介護予防事業 介護予防普及啓発事業の実施  
(B型リハビリ教室の実施)

補助  
委託

一般介護予防事業介護予防普及啓発事業(B型リハビリ教室)では、少子高齢化が進む中、住み慣れた地域で住民同士が交流をしながら、身体機能の低下や閉じこもりを予防すること

を目指しています。ボランティアの参画で、市内 20 小学校区で概ね週 1 回のリハビリ教室を開催しています。住民に「介護予防」を普及し、熱中症予防や食中毒防止、詐欺被害防止等の啓発を行い、共に地域において自立した日常生活を営むことができるよう、健康保持増進に努めました。

平成 29 年度末の社協だよりの影響もあり、平成 29 年度に比べ新規利用者が増えましたが、大阪府北部地震をはじめとする災害や会場の修繕等実施回数の減少から、利用者、ボランティアののべ数としては減少しています。

#### (介護予防普及啓発事業【地域参加型 B 型リハビリ】開催状況)

教室名	小学校区	実施回数 (回)	利用者 実人数(名)	利用者のべ 人数(名)	ボランティ アのべ人数(名)
ほっこりくらぶ	神 明	40	9	319	725
さわやかくらぶ	御 蔵 山	44	11	323	222
すこやか広野	大 久 保	36	9	260	516
ニコニコ菟道	菟 道	41	9	301	604
あったか平盛	平 盛	41	14	400	444
のんびりくらぶ	西大久保	35	12	261	446
みむろど健康教室	三 室 戸	41	14	453	498
なごみ岡屋	岡 屋	39	8	271	290
ホット大開	大 開	44	10	242	382
元気おうばく	宇 治	47	6	154	693
きらきら菟二クラブ	菟道第二	44	11	349	703
ハスの実くらぶ	小 倉	39	8	158	717
お茶の実クラブ	木 幡	37	8	230	546
しらさぎクラブ	南 小 倉	36	12	282	539
ふれあい北楨	北 楨 島	49	13	502	497
楨島あすなる会	楨 島	42	15	524	387
ぬくもり伊勢田	伊 勢 田	39	11	301	561
南部てんとう虫教室	南 部	43	11	398	515
スマイル西小倉	西 小 倉	39	12	316	368
フラワー北小倉	北 小 倉	41	7	227	282
合計		817	210	6,271	9,935

#### (宇治市内の介護予防普及啓発事業【地域参加型 B 型リハビリ教室】ののべ人数の推移)

	実施回数(回)	利用者のべ人数(名)	ボランティアのべ人数(名)
平成 28 年度	832	6,448	10,128
平成 29 年度	837	6,334	10,149
平成 30 年度	817	6,271	9,935

また、ボランティア講座等を通じて、新たなボランティア活動者を発掘に努めました。



(ボランティア研修会 開催状況)

実施日	①平成30年 7月30日(月) 10:00~11:30 ②平成30年 8月29日(水) 10:00~11:30 ③平成30年10月30日(火) 10:00~11:30 ④平成31年 1月30日(水) 10:00~11:30
実施場所	①・③うじ安心館、②南宇治コミュニティセンター、④宇治市生涯学習センター
実施目的	地域での介護予防に資する自発的な活動の普及啓発と住民の活動の育成
参加者	①54名 ②55名 ③40名 ④22名
内容	①脳・こころ・体 まるごと元気に!! 転倒予防 ②ボランティアとは ③応急手当 ④ラジオ体操からつながる地域の縁 ※兼サロン研修会
実施して	講義では熱心にメモを取られたり実践されている様子から今後のボランティア活動に役立つ内容で介護予防に携わるボランティアとして健康維持や知識の向上が図れたと実感しています。また、参加されていないボランティアや利用者に向けて実践されるなど、地域でも広めていただきました。



(体を使ったり座学で学んだり、様々な形態でのボランティア研修)

#### 4. Hot! ふれあいサロン活動を媒介にした地域づくり

**歳末募金**

孤立予防と身近に支えあえる仲間づくりを目的に活動するHot! ふれあいサロンに対して、宇治市共同募金委員会から助成金を交付されていますが、当会では、新規立ち上げ、運営等の相談に努めました。

生活支援体制整備事業や、異業種ネットワーク事業との関連において、サロン事業は、地縁組織を拠り所とする最小単位の地域福祉活動として、その精神が確実に根付いています。

集会所までは、歩いて行けなくなったという声を拾い、よりご近所に開所したり、100才を迎えられ、サロンでお誕生日祝う会を催されているところもあります。

高齢化に伴い、設営準備ができずに、惜しくも解散を余儀なくされるサロンもありました。当会では、連れ添いを亡くされ一人になった方へのサロン利用の声掛けにこそ、住民相互の

助け合いの意義を見出しています。その必要性を啓発することで、新たな立上げ支援に活かすことができました。



(100歳のお誕生日を地域のサロンでお祝いしました)

### (1) サロン助成金交付推移と一覧

114グループからサロン申請（助成金申請サロン107件、登録サロン7件）がありました。宇治市共同募金委員会の審査会を経て、当会はその事務局として、107件に助成金交付を行いました。

#### (サロン登録内訳)

サロン分類	高齢者	高齢者・障がい者	障がい者	子育て	目的別その他
箇所数 (割合)	93 (81%)	3 (3%)	1 (1%)	16 (14%)	1 (1%)

#### (Hot!ふれあいサロン登録数及び助成金交付の推移)

年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 ※
助成金総 (円)	3,217,000	3,295,000	3,289,000
サロン数 (登録のみ)	117 (13)	119 (13)	114 (7)
新規登録数	10	8	9

#### (登録・助成サロン一覧)

No.	登録	サロン名	会場校区	対象	回数	助成額 (円)
1		榎島ホットサロン	榎島	高齢者、障がい者	36	53,500
2		北榎サロンふれあい会	北榎島	高齢者	12	19,000
3		HOT ふれあいサロンかようかい	小倉	高齢者	48	53,500

4		一福会	南部	高齢者	24	36,000
5		野神ふれあいサロン	菟道第二	高齢者	12	19,000
6		うたごえ喫茶のびのび	宇治	障がい者	12	13,000
7		ホットサロンやすらぎ	榎島	高齢者	24	36,000
8	○	わくわくサロン	平盛	高齢者	12	-
9		風車の会	宇治	高齢者	11	19,000
10		Hot!ふれあいサロン「京かのこ」	木幡	高齢者	11	19,000
11		ミニホットサロンひまわり	大久保	高齢者	12	19,000
12		サロン広芝	宇治	高齢者	11	19,000
13	○	御蔵山サロン	御蔵山	高齢者	24	-
14		平尾ふれあいサロン	御蔵山	高齢者	34	53,500
15	○	明星ホットサロン	三室戸	高齢者	12	-
16		サロンピノキオ	木幡	高齢者	12	19,000
17		HOT 蔭山サロン	小倉	高齢者	12	19,000
18		ほっとふれあいサロンひまわり	宇治	高齢者	12	9,000
19	○	よもやま会	北小倉	高齢者	12	-
20		おこしやす	宇治	高齢者	23	36,000
21		ともしび	西大久保	高齢者、その他	26	42,000
22		HOTふれあいサロン権現	菟道第二	高齢者	10	19,000
23		HOT!ふれあいサロン ユトピア	御蔵山	高齢者	21	24,500
24		フレンドサロン	南部	高齢者	12	19,000
25		南山ふれあいサロン	御蔵山	高齢者	24	36,000
26		もみじ会	大久保	高齢者	12	19,000
27		ホットサロンさくら	大久保	高齢者	12	19,000
28		わかば会	榎島	高齢者	12	19,000
29		折鶴サロン	菟道	高齢者	24	36,000
30		どんぐりっこ	伊勢田	子育て	41	53,500
31		喜楽会	榎島	高齢者	12	19,000
32		ポヨポヨキッズ	菟道第二	子育て	22	36,000
33		わんぱくクラブ	大久保	子育て	24	36,000
34		ドラえもんサークル	小倉	子育て	36	53,500
35		サロンお茶の子会	南部	高齢者	12	19,000
36		プチMAMA 倶楽部	西小倉	子育て	10	19,000
37		ほっこりスペース あい	御蔵山	高齢者、子育て	60	53,500
38		ぐるぐる	小倉	子育て	41	53,500
39		HOTふれあいサロンあじさい	小倉	高齢者、子育て	34	53,500
40		バルーンクラブ	小倉	子育て	26	42,000
41		Toddlers ～トドラーズ～	小倉	子育て	45	53,500
42		華連グループ	神明	高齢者	18	30,500
43		きっずくらぶ	岡屋	子育て	21	30,500
44	○	ふれあいサロン“はる”	木幡	高齢者	24	-
45		むらさき気楽会	榎島	高齢者	96	53,500
46		ホットサロンゆうゆう	岡屋	高齢者	23	24,500
47		ズンドコサロン	西大久保	高齢者	40	34,000

48		Hot!ふれあいサロンすみれ	小倉	高齢者	10	19,000
49		ふれあいサロンやよい	木幡	高齢者	12	19,000
50		フリースペース「おやすみ」	西小倉	その他	52	53,500
51		白寿お茶飲み会	宇治	高齢者	23	36,000
52		くりくま健功会	大久保	高齢者	24	36,000
53		楽しく料理を作ろう会	北槇島	高齢者	12	19,000
54		北槇ハーモニー	北槇島	高齢者	24	36,000
55		イキイキ教室203	小倉	高齢者	22	36,000
56		サロン妙楽	菟道	高齢者	12	19,000
57		北内Hot!ふれあいサロン	槇島	高齢者	14	24,500
58		子育てママのアカハ°ラケ°ル°フ° Twinkle Tweety	岡屋	子育て	57	53,500
59		サロン車田	南部	高齢者	12	19,000
60		ユニエスさくら	菟道第二	高齢者	45	53,500
61		ハモフレ	神明	児童	40	53,500
62		開ひまわり会	神明	高齢者	24	36,000
63		はらぺこあおむし	御蔵山	子育て	20	30,500
64		井戸端かふえ・まんぷくじゃ	宇治	高齢者・障害者・子育て	23	36,000
65		丸山はづきの会	南部	高齢者	12	19,000
66		さわやか会	大開	高齢者	14	24,500
67		下村ほっとサロン	槇島	高齢者・子育て	14	24,500
68		ホットふれあいサロンつるかめ	槇島	高齢者・障がい者	12	19,000
69		ほっとほっとサロン	宇治	高齢者	17	24,500
70		色えんぴつ	御蔵山	高齢者	46	53,500
71		多文化コミュニケ°ル°グループ°さらだぼうる	菟道第二	子育て	28	42,000
72		おやこカ° にこにこたち	菟道第二	子育て	11	19,000
73		ワクワク光	菟道	高齢者	11	19,000
74		サロン槇の島	槇島	高齢者	15	24,500
75		サロン巨椋	槇島	高齢者	12	19,000
76		ふれあいサロンなでしこ	小倉	高齢者	25	36,000
77		サロンふれあいの森	北槇島	高齢者	50	53,500
78	○	楽老会	木幡	高齢者	36	-
79	○	ふれあいひろば	岡屋	高齢者	24	-
80		冒険遊び場 うさぎはらっぱ であそぼうよ!	宇治	障がい者、子育て	12	19,000
81		ミニステージ・イン・宇治	菟道	高齢者、障がい者、子育て、遺児・交通遺児	12	19,000
82		天神台ふれあいサロン絆	神明	高齢者	17	24,500
83		ふれあいサロン“はな”	木幡	高齢者	10	19,000
84		Hot!ふれあいサロン田原	西大久保	高齢者	12	19,000

85		友和会	小倉	高齢者	12	19,000
86		サロン白川	菟道	高齢者	17	24,500
87		ふれあいサロン川東	菟道	高齢者、児童・ 青少年・子育て	22	36,000
88		サロン絆	伊勢田	高齢者	20	30,500
89		菟道北ふれあいサロン	宇治	高齢者	36	53,500
90		さわやか会サロン同好会	大久保	高齢者	22	36,000
91		サロンいきいき	榎島	高齢者	24	36,000
92		文化サロン「ふん」	大久保	高齢者	12	19,000
93		落合元気アップ教室	北榎島	高齢者	24	36,000
94		サロン「水仙」	神明	高齢者	12	19,000
95		福寿会	南小倉	高齢者	11	19,000
96		あおぞら会	木幡	高齢者	12	19,000
97		ユニ宇治ふれあいカフェ	岡屋	高齢者	12	19,000
98		放課後山の遊び場 KULKUL	笠取第二	子育て	36	53,500
99		アルス、シルバー会	木幡	高齢者、児童・ 青少年	20	24,500
100		羽戸山サロン	宇治	高齢者、児童・ 青少年	11	19,000
101		Hot 蔭山縁が和サロン	小倉	高齢者	24	36,000
102		なかよし会	木幡	高齢者	14	24,500
103		ふれあいサロンひまわり	榎島	高齢者、児童・ 青少年	14	24,500
104		ホットサロン月夜	榎島	高齢者、障がい 者、子育て	14	24,500
105		イキイキの会	榎島	高齢者	20	30,500
106		南陵台唄声サロン「和み」	小倉	高齢者	18	30,500
107		あなたとみんなのスマイルカ フェ	北小倉	高齢者、障がい 者	9	13,000
108		わかさ会	菟道	高齢者	18	20,000
109		城南荘 木曜カフェ	大開	高齢者	24	36,000
110		金曜サロン	岡屋	高齢者	51	53,500
111		サロン山の家	笠取	高齢者	48	53,500
112		かもめサロン麻雀倶楽部	大開	高齢者	24	36,000
113		カフェすみやま	笠取第二	高齢者・子育て	16	24,500
114		笑う門には福来るの会	神明	高齢者	12	19,000

合計 2,529 3,289,000

※平成30年度は、宇治市共同募金委員会が直接配分を行いました。

(サロン研修会の実施) ※B リハボランティア研修の再掲

実施日	平成31年1月30日(水) 13:30~15:00
実施場所	宇治市生涯学習センター 第一ホール
実施目的	気軽にできるラジオ体操を正しく学び、健康維持に努める。 ラジオ体操を通じて、地域のつながりづくりの一助として普及する。
参加者	22名(サロンほか)
内容	講師 NPO法人全国ラジオ体操連盟 公認1級ラジオ体操指導士 京都府ラジオ体操連盟 澤野 美也子 氏 テーマ「地域に広がるラジオ体操」
実施して	きめ細やかな指導もあり、アンケート結果では受講満足度が非常に高く、今後も健康体操指導を望む声が寄せられました。

## 5. 生活支援コーディネーター業務(受託)と連携した地域活動支援の展開

補助  
委託

平成29年度より宇治市から、宇治市生活支援体制整備事業を受託しています。地域における高齢者の生活支援体制の整備を推進するため、生活支援コーディネーター業務ならびに協議体の設置を事務局会議、担当者会議において、宇治市、宇治市福祉サービス公社(以下、公社)と共に情報共有を行いながらすすめています。

平成30年度の生活支援コーディネーターは、他事業と兼任で、第1層協議体に公社2名、社協3名、第2層協議体に社協1名設置していました。第2層協議体の生活支援コーディネーターは7月より、プロポーザルにより受託しました。

昨年度は、南陵町をモデル地区とし南陵町の地域住民の皆さん、地域包括支援センターと共に「宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議【地域版】」(第2層協議体)をすすめてきましたが、今年度は槇島地区、岡屋地区を選定し第2層協議体を実施しました。



(地域の支え合い仕組みづくり会議の様子)

(事務局会議)

実施日	①平成30年 5月25日(金) 9:30~11:30 ②平成30年 7月 5日(木) 13:00~15:00 ③平成30年 8月10日(金) 9:30~11:30 ④平成30年10月11日(木) 9:30~11:30 ⑤平成30年10月26日(木) 9:30~12:00 ⑥平成30年12月 4日(火) 9:30~11:45 ⑦平成30年12月26日(水) 9:45~12:00 ⑧平成31年 1月30日(水) 9:30~11:00 ⑨平成31年 2月21日(木) 9:30~11:45 ⑩平成31年 3月14日(木) 9:30~11:45
場所	②宇治市福祉サービス公社中宇治事業所、⑨宇治市役所、②⑨以外は、宇治市総合福祉会館
参加者	宇治市；4名 公社；3名 当会；4名 7回目から1層協議体座長、副座長
目的	生活支援コーディネーター委託業務及び協議体運営にかかわる事項の協議
実施して	生活支援コーディネーターより各事業の実施報告、情報共有を行いました。 公社の生活支援コーディネーターからは、健康長寿サポーター養成講座、住民主体Bなどについての報告がありました。当会の生活支援コーディネーターからは、生活支援体制整備事業、生活支援コーディネーターの研修報告や、他市町村との意見交換、視察研修等の報告。第1層協議体、第2層協議体運営について報告と共に意見交換を行いました。 7回目の会議からは、第1層協議体の運営にあたり座長、副座長にも入っていただき会議をすすめました。

(担当者会議)

実施日	①平成30年 7月2日(月) 9:30~11:30 ②平成30年 9月4日(月) 9:30~10:30 ③平成30年11月6日(火) 9:30~10:30 ④平成31年 1月8日(火) 9:30~11:30 ⑤平成31年 3月5日(火) 9:30~11:30
場所	①宇治市福祉サービス公社中宇治事業所 ②③④⑤宇治市総合福祉会館
参加者	宇治市；2名 当会と公社の生活支援コーディネーター(公社；2名 当会；4名)
目的	「地域の声」「地域の活動」などの情報共有、生活支援コーディネーターの意見交換と情報共有。
実施して	平成29年度は、事務局会議の中で「地域の声」「地域の活動」などの情報共有や、生活支援コーディネーターどうして業務についての意見交換や情報共有に多くの時間を取ることができなかつた為、今年度、会議を分けて行いました。しかし、報告事項等が、事務局会議とも重なる部分もあり、担当者会議の持ち方が難しく、今後の課題となりました。

(宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議(第1層協議体) 1回目)

実施日	平成30年 7月18日(水) 13:30~15:30
場所	宇治市総合福祉会館
参加者	健康生きがい課; 7名 地域福祉課; 2名 文化自治振興課; 2名 介護保険課; 1名 公社; 3名 構成員; 15名 当会; 5名
目的	市全域を対象とする高齢者福祉に関する多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携による取組を推進する。
内容	平成30年度の「宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議」の年間予定を構成員の皆さんと確認し、お互いの活動で大切にしていることを共有し合うことを目標にし、各グループワークで意見交換をしました。 テーマは「活動紹介と活動での困りごと」活動の紹介が目的ではなく、活動を通して困りごとをお話ししていただき、それぞれの活動の始まったきっかけ、何を大事に活動してきたのか、その背景に何があるのかを皆さんと探り共通点を見出し、それを皆さんと共有しました。1グループ5分で、各グループ全員で発表をしていただきました。
実施して	皆さんに、グループワークの中で困りごとや、大事にしておられること、活動のきっかけなどのお話を伺い、その背景には何があるのだろうかを、皆さんと共に探った会議でした。その話された内容の中に、多くのキーポイントとなるものがあがりました。

(宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議(第1層協議体) 2回目)

実施日	平成30年 9月 7日(金) 13:30~15:30
場所	宇治市総合福祉会館
参加者	健康生きがい課; 4名 地域福祉課; 1名 文化自治振興課; 1名 公社; 2名 構成員; 11名 当会; 4名
目的	市全域を対象とする高齢者福祉に関する多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携による取組を推進する。
内容	第1回目の会議で、活動を通じての「困りごと」「大事にしているもの」などを皆さんと共に探り共有し、その共有事項を、「してほしいことカード」として作成しアイスブレイクに使用しました。第2回目の会議では「できることカード」を作成し、それぞれの地域、活動のたくさんの力を共有しました。
実施して	1回目、2回目の会議の中で「してほしいことカード」「できることカード」を作成し、皆さんの思いを可視化できました。見える可をすることで、見えなかったことが見えてきました。



(宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議(第1層協議体) 3回目)

実施日	平成30年11月30日(金) 13:30~15:45
場所	宇治市総合福祉会館
参加者	健康生きがい課; 6名 地域福祉課; 1名 公社; 3名 構成員; 18名 当会; 4名
目的	市全域を対象とする高齢者福祉に関する多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携による取組を推進するため。
内容	(公財)さわやか福祉財団の翁川由希氏をお招きし、勉強会を行いました。 「制度の背景」「協議体の目的・役割」について、お話を伺いました。 その後、グループワークにおいて、お話しを伺った感想と翁川さんに質問をグループごとにたくさんの意見を出していただきました。 後半は先進事例とし群馬県高崎市と大阪府太子町の事例をお聞きしました。
実施して	協議体の役割は、構成員の皆さんと、仕組みにならない住民同士の地域にある活動や思いを大切にしながら、整理し、アイデアを出し合い、各団体の得意なものを活かしながら役割分担をして理想に近づくようにしていくこと、そのことを地域に発信し広げていくことを学び合いました。生活支援コーディネーターとしては、地域住民に理解をしていただく工夫や住民同士の支え合いに関心を持っていただくには、アイデアを考えていくことを学びました。一方で、制度上の言葉が理解しづらいとの意見もありました。

(宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議(第1層協議体) 4回目)

実施日	平成31年 2月 8日(金) 13:30~16:00
場所	宇治市総合福祉会館
参加者	健康生きがい課; 5名 地域福祉課1名 文化自治振興課; 1名 公社; 2名 構成員; 17名 当会; 3名
目的	市全域を対象とする高齢者福祉に関する多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携による取組を推進するため。
内容	生活支援コーディネーターが昨年度から実施してきた内容を報告しました。 公社からは、健康長寿サポーター養成講座、住民主体Bの展開について報告があり、当会からは、第2層協議体の取り組みについて報告しました。 次にグループワークを行い、各団体の専門性、活動内容から見て、宇治市が目指す地域の姿を実現していくには、この「宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議」(第1層協議体)としてどんな役割を担っていくといいのか、そして、今後その役割を担っていくには、この会議でどのようなことをしていくといいのかを考えました。最後に、構成員で輪になって座り、来年度に向けて意見交換を行いました。
実施して	支え合いを、みんなに広げて知ってもらうには、広報や発信、啓発の場が必要との意見が出されました。第2層協議体を支援するために第1層協議体はたらきかけをすること、第2層協議体の課題を第1層協議体に出していくような仕掛けが必要であるとの意見もあり、次年度に向けて課題を確認できました。

(宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議【地域版】(第2層協議体) 槇島地域)

実施日	①平成31年1月18日(金) 10:00~12:00 ②平成31年2月 6日(水) 13:30~15:30
場所	①②槇島地域福祉センター
参加者	①槇島さろん連絡会・利用者: 26名 北宇治地域包括支援センター: 1名 宇治市健康生きがい課: 2名 生活支援コーディネーター: 6名 (公社: 2名 当会: 4名) 当会: 1名 ②槇島さろん連絡会: 15名 北宇治地域包括支援センター: 1名 宇治市健康生きがい課: 3名 生活支援コーディネーター: 5名 (公社: 2名 当会: 3名) 当会: 1名
目的	槇島地域で「槇島さろん連絡会」を中心にしながら、つながりや支え合いの地域づくりについて共に考える機会とする。そして、サロンを通して、地域の困りごとを話しあえる土壌づくりを行う。
内容	①槇島さろん連絡会のつながりを軸に、サロン利用者も参加する形式で交流会を行いました。①では一人暮らしの不安や、ごみの問題、相談する場が欲しい、などのご意見と、サロンに通い始め、つながりができた事で、心も身体も元気になれたなど、利用者の声を聞くことができました。 ②では、①の御意見の中から、利用者の日常にある不安の部分について、「サロンなどのつながりの活動を通して、私ができること」と題して意見交流を行いました。
実施して	サロンのボランティアのみならず、サロンの利用者の参加もあり、普段あまり聞く機会がない利用者の声を聞くことができました。 ①では、利用者のお話を聞くことで、サロンは、居場所といった、通う場所だけの機能ではなく、そのつながりの中にたくさんの意義や価値があることを、改めて確認することができました。 地域づくりに必要なのは、顔の見える、気に掛け合うつながりである事を、実感しました。 ②では、サロンというくくりではなく、向こう三軒両隣というような、身近なご近所同士の“気に掛け合う”というつながりがあり、その中で、小さな支え合いがされていることが分かりました。支え合いの仕組みづくりには、小さなつながりから広げていけるのではないかと感じ、このような交流会を定期的に行うことで、地域づくりの意識が高まるのではないかと感じました。

(宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議【地域版】(第2層協議体) 岡屋地域)

実施日	①平成31年3月6日(水) 13:30~15:30 ②平成31年3月20日(水) 13:30~15:30
場所	①②木幡公民館
参加者	①地域住民: 11名 東宇治南地域包括支援センター: 3名 第1層協議体: 座長 宇治市健康生きがい課: 3名 生活支援コーディネーター: 6名(公社: 2名 当会: 4名) 当会: 1名 ②地域住民: 6名 宇治市健康生きがい課: 3名 生活支援コーディネーター: 4名(当会: 4名) 当会: 1名
目的	近隣との付き合いが少ないと思われるマンションにおける福祉活動について、集合住宅等の居住率の高い岡屋地域を選定し、現状把握と、支え合いの仕組みづくりの構築要素の検証。
内容	マンション設立時から年月を経て、現在、高齢者への対応が気になる自治会、町内会をはじめ、支え合い活動や、地域福祉に携わる各団体及びサロン運営者の方々にお声掛けをし、開催いたしました。 ①では、ユニ宇治生活サポート隊の実践報告をしていただき、立ち上げのきっかけや、サポート隊の想いなどから、地域のつながりについて共有しました。 ②では、支え合い、助け合いの活動を広げるにはどのような要素が必要なのか、基盤となるつながりにはどのようなものがあるのかなどについて、意見交流を行いました。
実施して	①では助け合いの活動に携わる方の想いや、その活動の存在自体がもたらす“安心感”という効果を共有しました。また、助け合い活動には、継続性のある組織を基盤にすることが大切であるという、アドバイスをいただきました。 ②では、助け合い組織を作るには、自治会やサロン、サークルなどが、重層的に関わりを持ち、お互いがリンクさせてつながっていく事が大事であること、今あるものが先細りしていかないように、土台作りと並行してやっていくべきとの意見もありました。 高齢化率についても「いま、ボランティアできる人がこれだけいる」という、発想の転換の必要性についても語られました。 助け合いを必要とされている方が絶対にいらっしゃるなかで、必要かどうか現状を知ることやきっかけづくりは大事だとも語られました。 社会参加の視点からのボランティア参加など、新しいつながりが生まれ、それが地域づくりの基盤となるのではないかなど、意見が出されました。

補助  
委託

## 6. 各種機関と連携した中学生の学習支援事業～うじピョンの学び舎～の展開

平成29年7月24日より「学習支援事業～うじピョンの学び舎～」を運営しています。平成30年度は4月より原則、週2回18時～20時で開催しました。定期試験前や夏休みや冬休みの長期休みの際には、開催時間を昼間14時～16時に変更し、週3回開催することもありました。平成30年度は、年間106回の開催を予定しておりましたが、警報等の発令により6回中止とし、年間100回開催しました。

中学3年生の生徒に関しては進学に伴う教育支援資金の貸付相談に円滑につながるなど、

保護者と生徒と普段から関わりがあることが活きた場面がありました。

また、生徒が福祉に関わるきっかけづくりとして、福祉まつりへ招待をしました。

学習支援員には、中学生が少し先の将来の自分の姿を想像できるように主に大学生に参加してもらって活動しています。学習支援員の登録数は、22名ですが参加実態は少ない状況になっています。4回生も多く平成30年度で終了する学習支援員も多いため、2月から3月にかけて宇治市内の公立高校の3年生を対象にチラシの掲示や啓発の活動を行ないました。

### (学習支援事業の実施報告)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	8	8 (1)	7 (1)	7 (3)	11 (1)	8	9	9	9	8	8	8	100
参加人数 (のべ)	51	60	76	56	93	72	88	84	76	64	56	54	830
学習支援員 (のべ)	25	39	39	28	43	37	35	52	29	24	27	24	402

※ ( ) 内の数字は、中止になった回数 106回を計画していたが、天候や自然災害のため6回中止になった。

### (学習支援事業の実施推移)

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
回数	—	75	100
参加人数 (のべ)	—	612	830
学習支援員数 (のべ)	—	295	402

※平成29年度7月より実施。

## 7. NPO法人と連携した当事者による子育て支援事業



### (1) 「赤ちゃんサロン・広場・パーク」の実施（「NPO法人子育てを楽しむ会」と共催）

NPO法人との連携による子育て中の親子の出会いの場、相談の場づくりとして、1歳になるまでの子どもを持つ親を対象とした、赤ちゃんサロン・広場・パークを開催しました。

参加者の気持ちをほぐすプログラムの後、交流を促すフリートークの時間を設けるほか、小グループでのおしゃべりタイムを設け、参加者が自然と交流しやすくなるような工夫をしています。終了後には、連絡先の交換をしている様子をよく見られました。アンケートからも、月齢の近い親同士の話や気分転換の場として大変良かったという意見が半数以上ありました。

10月、11月、1月の赤ちゃんサロンと、10月の赤ちゃん広場では同志社女子大学看

護学部看護学科の学生を実習生として迎えて、地域での子育て支援のあり方や、実際の親子のふれあいの様子、親の喜びや悩みに触れる機会を提供しました。



(赤ちゃん広場の様子)

(赤ちゃんサロン・広場・パーク開催実績)

名称	赤ちゃんサロン	赤ちゃん広場	赤ちゃんパーク
対象 (市内在住に限る)	妊婦および1ヶ月から4ヶ月の赤ちゃんとお親	5ヶ月から8ヶ月の赤ちゃんとお親	9ヶ月から12ヶ月の赤ちゃんとお親
実施日時	原則 毎月第4木曜日	原則 毎月第1金曜日	原則 毎月第3金曜日
	10:00~12:00		
実施場所／参加費	宇治市総合福祉会館／参加費 200円		
実施回数	9回	10回	10回
参加状況 (スタッフ数：保育 ポ-ターは含まず)	89組 (56名)	165組 (55名)	168組 (59名)

※4月と8月は開催していません。※赤ちゃんサロンの6月は警報発令のため中止。

(赤ちゃんサロン・広場・パーク参加者の推移)

(単位：組)

年度	赤ちゃんサロン	赤ちゃん広場	赤ちゃんパーク	合計
平成28年度	117	192	143	452
平成29年度	120	158	100	378
平成30年度	89	165	168	422

(2)「おしゃべりキャッチボール」の実施(「NPO法人子育てを楽しむ会」へ委託)

子育て中の親の悩みに基づいた当事者同士の出会いの場、相談の場づくりとしてのおしゃべりキャッチボールの展開を行っています。

平成30年度は、平成28年度より開催している、宇治市に転入して1年未満の0歳～3歳までの子どもを育てる母親を始め、アレルギーのある子どもを持つ母親、多胎児を育てる母親を対象に、宇治市内の当事者グループや助産師などの協力を得て実施しました。当事者同士の交流を行うことで、情報の交換や悩みの共感などができ、参加者のリフレッシュの時間となりました。当会としても、活動されている当事者や悩みを持つ方の声が聴ける貴重な機会となっています。多くの参加者が、同様の悩みを抱える者同士共感しあい、今後の情報交換などのためにLINEでつながるなどの新たなネットワークを築いておられます。

平成30年度は、10月、11月、2月の開催の際に、同志社女子大学看護学部看護学科の学生を実習生として迎えて、地域での子育て支援のあり方や、実際の親子のふれあいの様子、親の喜びや悩みに触れる機会を提供しました

赤ちゃんサロン・広場・パーク等での相談でも、発達のことや相談を受けることがあり、平成31年度からは、宇治市に転入して1年未満の子育て中の親を中止し、発達が少し遅いかな？と不安を感じる子育て中の親を対象に開催します。

### (おしゃべりキャッチボール開催状況)

テーマ	宇治市に転入して1年未満の子育て中の親	アレルギーの子どもをもつ親	多胎児の親
対象	市民全般		
実施日 10:00～11:30	① 7月12日(木) ② 10月11日(木)	① 6月 6日(水) ② 11月 7日(水) ③ 2月 6日(木)	① 5月10日(木) ② 9月13日(木) ③ 12月13日(木) ④ 3月 7日(木)
実施場所・参加費	宇治市総合福祉会館／無料		
親子数(参加者数)	① 2組(4名) ② 0組(0名)	① 2組(4名) ② 2組(4名) ③ 2組(4名)	① 5組(15名) ② 4組(12名) 同女4名 ③ 6組(9名) (妊婦2名) ④ 3組(5名)

### (3) 子育てサークルなどへの情報提供および広報

子育てサークル見学希望者との連絡調整及び相談に対応しました。現在、子育てサークルの調整は、宇治市子育て支援機関センターが窓口となっているため、本会に連絡があった際には、子育て支援機関センターへとつないでいます。サロンとして活動をする団体への調整は、当会において実施しました。

宇治市総合福祉会館に常設している子育て情報コーナーで市民向けの各種情報を提供しました。会館内に配架しているのみになるので、その世代の情報入手の方法に合わせた発信方法を検討していく必要があります。

## 8. 障がいのある人への支援

利用  
負担 補助  
委託

身体に障がいのある方が、社会参加の場を得、多くの方と交流ができるよう、ヨガ、手づくりなど、様々な教室を開催してきました。また、車いす利用者の外出を支援する移動支援事業を実施しました。

### (1) 身体障がい者デイサービス事業の実施

身体に障がいのある方が、社会参加の場を得、多くの方と交流ができるよう、ヨガ、手づくりなど、身体障がい者デイサービス事業として様々な教室を開催しています。利用者の身体機能の低下も見られる時がありますが、利用者同士の支え合いもある中で、安全面に配慮しながら運営しています。

#### (各教室の実施状況)

年度	教室数	教室開催数	登録人数(人)	のべ利用者数(人)
平成28年度	11	164	64	695
平成29年度	10	147	53	700
平成30年度	9	137	29	564

#### (平成30年度 各教室の状況)

教室名	年間開催数	登録利用者数	登録利用者内訳				のべ参加者数	1回当たりの参加人数	平均出席率
			肢体	視覚	聴覚	内部			
視覚裁縫	12	3	0	3	0	0	34	2.83	94%
卓球バレー	50	8	6	1	1	0	242	4.84	61%
書道	12	5	2	1	0	2	44	3.67	73%
コーラス	18	9	2	5	1	1	116	6.44	72%
手作り	12	3	0	2	1	0	32	2.67	89%
絵てがみ	11	2	1	0	1	0	14	1.27	64%
生け花	2	1	0	0	0	1	2	1.00	100%
ヨガ	9	8	1	6	1	0	48	5.33	67%
遊びのできるリハビリ	11	4	1	3	0	0	32	2.91	73%
合計	137	43	13	21	5	4	564	4.12	

## (2) 身体障がい者移動支援事業の実施

車いすを利用する方への移動支援を展開しています。継続して社会参加をするために移動支援事業を活用いただいています。しかしながら、登録ガイドヘルパーの高齢化が課題となり、新規での相談に応じるのが困難な状況です。

平成30年度の登録者数は、実際に稼働したヘルパー数になっています。

### (移動支援事業の状況)

年度	ヘルパー 登録者数(名)	利用登録者(名)	派遣調整(件)	派遣実施数 (件)
平成28年度	31(11/19)	16(9/7)	277	264
平成29年度	31(11/20)	14(10/4)	230	215
平成30年度	9(4/5)	13(9/4)	230	204

## 9. 市民参加による宇治市災害ボランティアセンターの運営



### (1) 災害ボランティアセンターのPR

広報物として作成していた、回覧板は配布が終わりました。また、宇治市災害ボランティアセンターのPRリーフレットを改めて編集し直し、新たに5,000枚作成しました。

協働運営のセンターとして、運営委員とともに、西小倉地域防災訓練に参加し、リーフレットの配布や宇治市歴史資料館より提供いただいた昭和28年災害時の写真や京都府南部地域豪雨災害の時の災害ボランティア活動パネルの掲示などを行いました。自治会・町内会関係者や訓練参加団体などに宇治市災害ボランティアセンターをPRしました。その結果、新たな加入団体の獲得をすることができました。

宇治市総合防災訓練における啓発を企画していましたが、荒天のため、中止となりました。

また、宇治ボランティア活動センター主催の宇治ボランティアフェスティバルに初参加し、宇治市危機管理室より借用した宇治川周辺のハザードマップや京都府南部地域豪雨災害の時の災害ボランティア活動パネルを展示し、多くの来館者に見ていただきました。

また、北宇治中学校の防災学習に講師として参加し、災害時のボランティア活動についての啓発を行いました。



(西小倉地域訓練への参加)

日 時	平成30年12月2日(日) 9:00~12:00
場 所	南小倉小学校 グラウンド
参加者	運営委員6名、事務局2名
内 容	宇治市災害ボランティアセンター啓発ブースの展開 ・PRリーフレットの配布 ・京都府南部地域豪雨災害時の写真の展示 ・昭和28年災害時の写真の展示

(宇治ボランティアフェスティバルへの参加)

日 時	平成31年3月17日(日) 10:00~15:30
場 所	宇治市総合福祉会館
参加者	運営委員3名
内 容	宇治市災害ボランティアセンター啓発ブースの展開 ・PRリーフレットの配布 ・京都府南部地域豪雨災害時の写真の展示 ・宇治川周辺のハザードマップの展示 ・スタイル of ボランティアへの参加 運営委員3名による災害ボランティアセンターのPR



(スタイル of ボランティアに参加する運営委員)

(講師派遣について)

依頼者	北宇治中学校
内容	災害ボランティア活動と常設型災害ボランティアセンターと災害ボランティアについて
日時	平成30年6月29日(金) 8:45~12:00
場所	北宇治中学校
参加者	運営委員2名
実施して	運営委員2名が中学校にて災害ボランティアセンターのPRを行いました。平成24年京都府南部地域豪雨災害の話を通じて、災害が起きたときに専門家ではなくボランティアができる役割があることを伝え、何かの時にお互いに支え合えるよう、普段からの顔が見える関係づくりが大切だということを伝えました。

(2) 加入団体とのつながりづくり、運営体制の強化

災害時に災害ボランティアセンターが機能するために、加入団体とのつながりづくりとして、総会時の講演会の開催や、運営体制の強化のために加入団体から新たに運営委員を選出させていただき、運営体制の強化に努めました。

また、平成29年度に実施した災害時運用訓練の反省を踏まえ、運営委員による図上訓練を実施しました。平成22年に発行した、「宇治市災害ボランティアセンター運用の手引き(ポイント)」を改訂するため、運営委員会において議論を進めてきました。平成31年度内の改訂に向けて、引き続き議論を進めてまいります。

(第11回総会)

日時	平成30年5月19日(土) 9:30~12:30
実施場所	宇治市総合福祉会館 大広間
参加者	55団体65名(うち委任状15団体)※正会員79団体中
実施内容	・平成29年度事業報告・決算報告 ・平成30年度事業計画・予算 ・平成30年・31年度 運営委員選出



(講演会の様子)

(講演会「地域における普段からのつながりづくりについて～災害時に備えて～」)

日 時	平成30年5月19日(土) 11:00~12:30
場 所	宇治市総合福祉会館 大広間
参加者	40団体65名※第11回総会と同日開催
内 容	講師：大谷大学 教授 志藤 修史氏 内容：地域における普段からのつながりづくりについて ～災害時に備えて～
実施して	要介護者とともに生活をしている世帯や一人暮らし高齢者など、暮らしの中で困りごとが起きやすい状況にある世帯ほど、普段の生活の中で地域とのつながりが少なく、情報が少ないことを知る機会となりました。また、その結果、災害時においても情報が得られにくく、孤立しがちな状況にあることを学びました。普段の活動の大切さと地域での顔の見える関係作り、支えられる側にも「役割」を持って関わってもらう視点の重要性を、当センター加盟団体とともに確認をする機会となりました。

(運営委員会の開催)

回	日 時 (時間は19時~21時)	場 所	主な議題内容
1	平成30年 4月25日(水)	宇治市総合福祉会館	第11回総会について/北宇治中学校 防災学習について
2	平成30年 6月29日(金)		宇治市防災訓練への対応/マニュアル 改訂について/訓練企画について
3	平成30年 7月10日(火)		豪雨水害による本センターの対応につ いて/府災害ボラセンよりの協力要請 への対応について
4	平成30年 8月31日(金)		宇治市災ボラ訓練について/マニユ アル改訂について
5	平成30年11月30日(金)		西小倉地域防災訓練/宇治市災ボラ訓 練について/マニュアル改訂について
6	平成31年 1月29日(火)		新規加入希望団体について/平成30 年度災害ボラセン助成について/宇治 市災ボラ訓練について/ボランティア フェスティバル参加について/マニユ アル改訂について/運営委員の交代に ついて
7	平成31年 3月25日(月)	宇治市産業会館	マニュアル改訂について/第12回総 会に向けての協議

(災害ボランティアセンター災害時運用訓練の実施)

日 時	平成31年2月17日(日) 9:30~12:00
場 所	宇治市総合福祉会館
参加者	運営委員12名、事務局3名
内 容	宇治市災害ボランティアセンター災害時対応図上訓練 ・運営委員によるニーズの想定やそれを受けての「判断」について確認をする。(参加者全員による訓練) ・大枠の判断を決めた後、具体的なニーズ判断に関する意識向上を図る。(グループごとの訓練) ・普段の活動や情報の中で、災害時にも活かされる情報共有や今後、連携が必要と思われる団体について協議をする。(グループごとの訓練) ※地震による被害を想定し、参加者全体でのニーズ想定と大枠の判断

(3) 京都府災害ボランティアセンターへの協力

京都府災害ボランティアセンターの運営委員として、平成29、30年度の2年間、宇治市災害ボランティアセンターから、運営委員1名が参加しています。

7月豪雨災害では、運営委員が、初動支援チームや、ボランティアバスの受付事務、ボランティアバスのリーダーとして参加し、災害ボランティア活動への支援を行いました。

(研修・イベント等への参加)

日 時	①平成30年 6月 9日(土) 13:30~16:20 ②平成30年 9月 2日(日) 9:20~12:00 ③平成30年11月22日(木) 10:30~16:00 ④平成30年12月 5日(水) 13:30~16:30 ⑤平成30年12月12日(水) 13:30~16:00
場 所	①③京都テルサ、②綾部市総合運動公園、④⑤ハートピア京都
内 容	①京都府災害ボランティアセンター全体研修会 加盟団体の活動を共有し、多様な対応を可能とする協働支援者へ ②京都府総合防災訓練 災害ボランティアセンター設置運用訓練 ③初動支援チームフォローアップ講座 ④トップセミナー(1日目) ⑤トップセミナー(2日目)
参加者	①運営委員2名、②運営委員4名、③運営委員1名、④運営委員1名 ⑤運営委員1名
参加して	平成30年度は、府内で発災があり、災害ボランティアセンターを立ち上げた市町村がありました。また、全国各地で災害が起こり、災害ボランティアセンターの設置がされました。その中で、災害ボランティアの連携のあり方、災害ボランティアセンターの運営方法などを考える機会となりました。他府県、他市町村の実際の運営の事例を聞く機会となり、改めて災害ボランティアセンターの役割を考える機会になりました。

(豪雨災害支援 運営委員対応)

日 時	①平成30年 7月11日(水) ②平成30年 7月12日(木) ③平成30年 7月14日(土)～17日(火)
場 所	①福知山市災害ボランティアセンター、②ハートピア京都、③福知山市
内 容	①初動支援チームとしての派遣、②ボランティアバス受付業務 ③被災地における支援
参加者	①運営委員1名、②運営委員1名 ③運営委員3名(別々の日程にて参加。日帰り)

補助  
委託

10. 高齢者の活動支援としての宇治市老人福祉センターサークル協議会への運営協力

宇治市総合福祉会館内の老人福祉センターで行われている高齢者のサークル活動に対して、運営に関する相談やサークルのPR、それぞれのサークルの連絡組織である宇治市老人福祉センターサークル協議会(USK)の運営を支援しました。

(老人福祉センターサークル数の推移)

年度	サークル数	登録者(名)
平成28年度	19	363
平成29年度	20	400
平成30年度	22	420

(シルバーウエルネス舞台発表大会・展示発表大会開催の支援)

実施日	①舞台発表大会：平成30年 9月25日(火) 10:30～16:00 ②展示発表大会：平成30年 9月29日(土) 13:00～16:00 30日(日) 9:30～15:00
場 所	①宇治市文化センター小ホール ②宇治市総合福祉会館
実施目的	各サークルの発表及び作品の展示と交流
発表内容	①合唱・太極拳・カラオケ・民謡・謡曲・詩吟・三味線・大正琴・社交ダンス・3B体操・ナツメロ ②華道・書道・陶芸・編み物・茶道・ちぎり絵

(当会活動への協力状況)

USKでは、広く社会福祉へ貢献することを目的に、サークルの参加者から寄付金として当会ふれあい基金等に寄せていただきました。また、12月の「クリーン運動」では、57

名のサークル会員が、会館内及び会館前広場の清掃を実施しました。そして、ボランティア活動センター主催「清掃交流会」に8名が参加しました。さらに、社協だよりの掲載や洛南タイムスの月イチうじピョンの「〇〇な話」において、3サークルがサークルの紹介とサークル会員の募集を、広く呼びかけました。

(団体会費等への協力状況)

(単位：円)

年度	団体会費	ふれあい基金	共同募金	歳末募金
平成28年度	36,300	47,741	60,923	
平成29年度	39,500	50,000	57,164	
平成30年度	43,100	60,602	60,144	8,900

(館外研修の支援)

毎年老人福祉施設を訪問し、USK 活動の参考にしています。平成30年度は、「奈良市南福祉センター」へ35名が訪問し、ひきこもりがちな老人を対象とした「音楽サロン」に参加し、奈良と京都に因んだ歌の合唱や合奏するなど交流を深めることができました。

11. 各団体の力を結集して盛り上げる「宇治福祉まつり」の開催



市民や福祉関係者が一堂に集い、地域の福祉活動を盛り上げたり、相互のつながりを生み出したりすることを目的に、宇治福祉まつりを11月4日(日)に宇治市総合福祉会館一帯で開催しました。平成30年度は、市政だより、社協だより、実行委員の募集を記事の掲載をして、すその拡大を目指しました。新たな団体や個人から3名の新しい実行委員が加わり企画・開催しました。

改修工事の関係で、菟道第二小学校のグラウンドを駐車場として利用できないなか、実行委員会で協議を重ね、参加団体は1台までとし、公共交通機関で来場頂くためにクイズラリーの開催等を行いました。

また、各施設・団体に協力をお願いし、社会福祉法人山城福祉会、宇治市民間保育園連盟よりテントを借用し行いました。

自転車での参加も多くみられ、子ども広場で出展をしている団体からは、昨年よりも来場者が多かったのではないかという意見も聞かれました。一方で、自転車等での来場が難しい層の参加が少なかったという意見もありました。

(実行委員会)

日 時	①第1回：平成30年 5月 9日（水）19：30～21：00 ②第2回：平成30年 6月 1日（金）19：00～21：00 ③第3回：平成30年 7月 6日（金）19：00～21：00 ④第4回：平成30年 9月12日（金）19：00～21：00 ⑤第5回：平成30年10月 4日（木）19：00～21：00 ⑥第6回：平成30年10月30日（火）19：00～21：00 ⑦第7回：平成31年 1月18日（水）19：00～20：30
場 所	宇治市総合福祉会館
参加者	宇治福祉まつり実行委員9名、事務局4名
内 容	宇治福祉まつりの企画立案と検討、運営面の協議・確認等
実施して	前日準備、当日の円滑な開催に向けたことを協議しました。 駐車場のことで大きく変更点がありましたが、協議を重ね、大きな事故・トラブルなく開催を終えることができました。 反省会では、次年度に引継ぎをする内容を確認しました。

(事前説明会)

日 時	平成30年7月18日（水）10：00～12：00
場 所	宇治市総合福祉会館 大広間
参加者	80団体
内 容	実行委員の紹介 昨年度よりの駐車場等の変更事項の周知 各ブースの時間の流れの周知
実施して	平成29年度より大きく変更になった駐車場の件で、各団体1台ということと来場者数が減るかもしれないということを周知したうえで申込みを受けることとしました。団体の駐車場が1台しかないという理由で、申込みを辞退された団体を1団体確認しています。事前に説明を重ねることで、駐車場に関しての混乱を未然に防ぐことができた。

(参加団体説明会)

日 時	平成30年9月28日（金）10：00～12：00
場 所	宇治市総合福祉会館 大広間
参加者	83団体
内 容	企画や運営内容の連絡、共有、協議、会場配置について／エコ系の分担協議
実施して	参加団体に関して、当日の注意事項や、エコ係等の役割分担についての確認を行ないました。また、申込み内容やブースの確認等、実行委員と参加団体での双方向での当日に向けた確認を行ないました。生涯学習センターでの、相談・体験コーナーのパネル貸出希望や、当日の会場乗入時間の前倒しの希望などがあり、当日の運営方法について一緒に考える機会となりました。

(2018宇治福祉まつり当日)

日時	平成30年11月4日(日) 8:45~17:00
場所	宇治市総合福祉会館一帯
参加者	参加者: 6,000人以上(参加団体94団体、運営協力団体19団体、個人ボランティア(前日準備・当日)2名含む)
内容	宇治中吹奏楽部の演奏 各団体による30秒PR: 20団体 オープニング(開会宣言・来賓あいさつ) ステージ発表: 14団体/福祉の店: 34団体/展示: 23団体 体験・相談: 24団体/子ども広場: 6団体/スタンプラリー: 9団体
実施して	駐車場の確保ができないというところがありましたが、天候にも恵まれたたくさんの来場で賑わいが見られ、子供連れの来場者も多く見られました。福祉の店のテントについては、宇治市民間保育園連盟、社会福祉法人山城福祉会に貸与の協力を頂きました。宇治市内の福祉施設・団体の力を集結し、開催をすることができました。また、それらのやりとりのなかで、団体と施設間でも顔が見える関係を築いていくきっかけにもなっています。また、クイズラリーの景品には、参加団体である宇治鳳凰ロータリークラブ等より提供いただきました。



(福祉まつりの様子)

## 12. 異業種とのネットワークの構築



宇治市福祉サービス公社と合同で取り組んできた「介護離職」を切り口にした企画経営のプロジェクトでは、異業種の企業との接点をつくることはできませんでしたが、対象世代となる宇治青年会議所とのつながりについて、現在も模索しています。

京都府市町村社協連合会主催の「地域福祉活動の基盤強化のためのネットワークづくり事業」として、学校法人南京都学園京都福祉専門学校、榎島学区福祉委員会、榎島ほっとサロン連絡会、京都ノートルダム女子大学の協力を得て、「超高齢社会における地域福祉課題と次世代を担う若者とのつながり事業」を実施しました。

その結果、専門学校の会場と学生、教員のマンパワーを得て、榎島地域に新たな世代交流



型のサロン「宇治けんこう楽学広場」が開設されました。同時に、京都ノートルダム女子大学のアンケート調査から、サロン活動の推進意義を地域住民と再認識することができました。

### 13. 多様な世代への福祉の働きかけ



#### (1) 京都文教大学ボランティア演習を通しての大学生へのボランティアへの働きかけ

京都文教大学の科目である「地域ボランティア演習」に関して業務提携を行い、学生のボランティア活動促進に努めています。この「地域ボランティア演習」では、学校支援コース、自己開拓コース、社会福祉コースがあり、本会は社会福祉コースを担っています。

春学期は、10名の履修登録があり、10名の単位認定を行いました。秋学期は14名の履修登録があり、14名の単位認定を行いました。

平成30年度より、宇治東福祉会からも受入れ先としての申し出があり、学生の受入れをお願いしています。

#### (京都文教大学ボランティア演習の演習実施状況)

春学期		秋学期	
団体・施設名	人数	団体・施設名	人数
特定非営利活動法人就労ネット うじ みっくすはあつ	1	特定非営利活動法人就労ネット うじ みっくすはあつ	2
宇治市障害児・者父母の会	2	宇治市障害児・者父母の会	2
宇治市社会福祉協議会 (介護予防普及啓発事業B型 (地域参加型)リハビリ教室)	3	宇治市社会福祉協議会 (こどもの学習支援事業)	3
宇治川福祉の園	2	宇治川福祉の園	2
宇治ボランティア活動センター	1	宇治ボランティア活動センター	2
宇治東福祉会	1	宇治東福祉会	1
		要約筆記サークル エコー	2

#### (2) 中学生と赤ちゃんの交流事業への協力

乳児から2歳頃までの赤ちゃんとお母さんが「赤ちゃんボランティア」として中学校を訪れ、中学3年生と交流をはかる事業です。当会はボランティア募集、連絡調整、当日のサポート、実施後のフォローを行いました。平成30年度より、チラシの作成や印刷は中学校にお願いするなど、多くの学校からの開催希望があっても対応できるように役割分担を行い取り組みました。中学生が実際に赤ちゃんを抱き、命の重みや温かさを肌で感じ、子育て中の親の思いを聞く中で、自分自身も大切に育てられたことや命の尊さを学びました。参加した親にとっても、“ボランティア”を身近に感じてもらうきっかけとなっています。平成30年度は、

東宇治中学校・黄檗中学校・宇治中学校・南宇治中学校で実施しました。平成29年度、実施していた西宇治中学校と、槇島中学校は学校側の事情により中止となりました。4校全ての学校において地区民生児童委員協議会、NPO 法人子育てを楽しむ会の協力をいただきました。また、黄檗中学校においては、地元の学区福祉委員会からの協力がありました。「赤ちゃんボランティア」の申込み方法を、インターネット上で申込みフォームを作成して申し込める方法を新たに取り入れ、時代に合わせた募集方法を取り入れています。

東宇治中学校では、赤ちゃんとして参加をした生徒が授業を受け、生徒として授業を受けていた方が母親として赤ちゃんを連れて参加をされるなど、15年という年月が続いているということを実感する場面がありました。

#### (東宇治中学校)

実施日	平成30年6月26日(火)、27日(水)、28日(木)
実施場所	東宇治中学校
対象	東宇治中学校3年生(6クラス)
協力者	NPO 法人子育てを楽しむ会 岡屋・菟道地区民生児童委員協議会
赤ちゃんボランティア数	のべ97組(実数59組)

#### (黄檗中学校)

実施日	平成30年10月3日(水)、4日(木)
実施場所	黄檗中学校
対象	黄檗中学校3年生(4クラス)
協力者	NPO 法人子育てを楽しむ会 東宇治・木幡地区民生児童委員協議会・宇治学区福祉委員会
赤ちゃんボランティア数	のべ60組(実数41組)

#### (宇治中学校)

実施日	平成30年10月22日(月)、23日(火)、24日(水)
実施場所	宇治中学校
対象	宇治中学校3年生(5クラス)
協力者	NPO 法人子育てを楽しむ会 琵琶・神明・宇治地区民生児童委員協議会
赤ちゃんボランティア数	のべ97組(実数59組)

#### (南宇治中学校)

実施日	平成31年3月12日(火)
実施場所	南宇治中学校
対象	南宇治中学校3年生(2クラス)
協力者	NPO 法人子育てを楽しむ会 大久保地区民生児童委員協議会
赤ちゃんボランティア数	のべ33組(実数33組)



(赤ちゃん交流事業の様子)

#### 14. 社会福祉法人等の公益的活動と連携した



#### 地域福祉課題解決に向けたしくみづくり構築

当会の各種事業は公益的意味合いを持ち実施していますが、他法人等の公益的活動と連携した取組みという点において、具体的な連携のしくみづくりまでには至りませんでした。

今後の連携のしくみづくりに向け、他法人との連絡、調整を積極的に行いながら、市内の公益的活動の情報集約と発信の役割を担えるよう取組みを進めます。



#### 15. 宇治市福祉サービス公社との共同プロジェクトなどの関係機関との連携による

#### 地域課題解決に向けたしくみづくりの推進

宇治市福祉サービス公社との共同プロジェクトは、二者以外にも取組みを広げていきました。

##### (1) 課題対応力向上をめざした狭間なくし隊の取組み

狭間なくし隊は、次の内容の趣意書を作成し、他の法人の方にもメンバーに加入してもらうように声をかけ、活動を行いました。

私たち狭間なくし隊は平成28年度に活動を開始し、これまで、市内社会福祉法人等を対象とした意見交換会や、その意見交換会から見えた専門職の「困りごと」を解決するための勉強会を開催してまいりました。

この活動は、組織、専門職種や、キャリアなどのあらゆる垣根を越えて、「福祉」という暮らしに密着した専門性を持つ仕事をしている者同士が出会い、自分達の働くまち宇治、自分達が暮らすまち宇治の環境がよりよくなることを目標とし、進めております。

この2年間の取り組みの中で、「他職種で顔見知りの関係ができた。」「分野を越えてサポートするために、一人ひとりの専門職が考えるきっかになった。」や「専門分野が違って、同じことを『狭間』だと感じていることが分かった。」などの意見が聞かれました。専門職同士で普段はできない会話をすることで、新たな連携づくりの種を作ることができてきています。

これまでは、(社福)宇治市社会福祉協議会と(一財)宇治市福祉サービス公社が取り組みを進めてまいりました。しかし、2者のみでは、多くの専門職の「想い」が反映された取り組みとなり得ていないことが課題となっています。福祉課題の複雑化や多様化に対応するために、「課題を解決したい」「狭間をなくしたい」という想いを結集して、取り組みを進める必要があると考えております。

そのため、狭間なくし隊一同は、宇治市内の福祉専門職の「法人」、「福祉制度」、「職種の価値観」、「専門職自身の知識」や「専門職間の役割の認識」におけるあらゆる「狭間」をなくすために、協力をいただく「狭間なくし隊」の新たな隊員を募集しております。

#### (狭間なくし隊 勉強会・WANTED!の企画会議)

実施日	平成30年 6月16日(金) 18:30~20:30 平成30年11月20日(金) 18:30~20:30 平成30年12月11日(火) 18:30~20:30 平成31年 2月19日(金) 18:30~20:30 平成31年 3月 5日(水) 18:30~20:30
目的	狭間なくし隊としての活動を、他法人を巻き込みながら行なう。
内容	狭間なくし隊として、狭間をなくすための取組みのために、企画会議と、振返り会を行なう。

#### (狭間なくし隊 勉強会・WANTED! 制度の狭間意見交換会の取組み)

実施日	平成31年 2月26日(火) 18時30分~20時30分
目的	“たら”“れば”意見交換会 ~前向きな妄想が狭間をなくす~と題し、1つの事例の話を聞いた後に、“高齢”“障害”“児童”の分野を越えて、「専門職の立場として」「当事者の立場として」「私」がどう思い、どう考えるかを、話合う機会を設けたいと考えております。事例検討ではなく、それぞれの専門職の立場からの率直な意見や、当事者であった場合に望むことを、前向きな妄想をしながら意見交換をする場を設けたいと考えています。前向きな妄想を共有することで、実際の支援の場での職種間等の狭間をなくしていき、多職種間での顔の見える関係を作り『連携』の輪を広げることが目的として開催しました。
内容	「WANTED!! 制度の狭間」意見交換会 【“たら”“れば”意見交換会 ~前向きな妄想が狭間をなくす~in うじ】

	<p>1. 開会あいさつ（18時30分）</p> <p>2. グループワークに向けた事例の紹介（18時40分） 事例提供者：北野 太郎氏 医療法人 かどさか内科クリニックケアプランセンター頼政道</p> <p>3. グループワーク（18時50分） テーマ：もし、本人の立場だっ“たら” どういうモノ・コト・ヒトいれば良い</p> <p>4. 意見集約（19時20分） いくつかのグループからの意見集約</p> <p>5. グループワーク（19時30分） テーマ：もし、自分が支援者であ“れば”、こういうできるかも</p> <p>6. 意見集約・事例その後（20時00分） いくつかのグループからの意見集約 事例提供者 北野氏より 事例での関わり方の紹介</p> <p>7. まとめ・閉会（20時15分） ゲストコメンテーター：大谷大学社会学部 教授 志藤 修史氏 多職種のグループになるようグループを7グループ作り、北野氏から事例提供を頂き、それについて“たら”“れば”をテーマに話し合いました。</p>
参加者	47名（狭間なくし隊メンバー含む）
実施して	<p>志藤先生から、こういった意見交換会を重ねていくことで、「顔の見える関係ができ、気軽に相談できるようになる」という意見や、事例集を作成するのであれば「A事業所のBさん」とかの匿名でなく、〇〇法人の〇〇さんと実名での表記の事例集があれば良いのではないかと。</p> <p>参加者からは、「それぞれの専門職の視点が全くちがうことがとてもおもしろかった」や、「宇治には福祉、日常の問題に対して、こんなにたくさんの人が前向きに取り組んでくれているんだと感激した」との感想がありました。</p>



（「WANTED！！制度の狭間」意見交換会の様子）

## (2) 企画経営を意識した「UI」プロジェクトチームの取組み

働く世代が職場を超えて就労や生活の場である「宇治」の未来を考え、宇治に住んでよかった、宇治で働いてよかったというようなつながりを持つことを目指し、介護離職に着目して、企業や働く世代にどうかかわるかを模索しています。

平成29年度は宇治市内の企業等にアンケートを実施しました。その展開をきっかけに、介護に関するセミナー開催についてアプローチをしかけましたが、平成30年度は実施に至りませんでした。

### (UI プロジェクトチーム定例会議)

実施日	平成30年 4月13日(金) 16:00~18:30 平成30年 5月10日(木) 16:00~18:00 平成30年10月12日(金) 16:00~18:00 平成30年11月 8日(木) 14:00~16:30 平成30年12月13日(木) 15:00~17:30 平成31年 1月11日(金) 17:00~18:00 平成31年 2月21日(木) 16:00~17:30 平成31年 3月 7日(木) 16:00~17:30
内容	宇治市内の企業やそこに所属する方が抱える介護に関する問題の解決に向けて、企業経営者等との関わり方等についての協議・検討を行いました。
実施して	プロジェクトチームのメンバーは、介護離職をせざるを得ない当事者等と接する機会を現実を持っており、宇治市内に存在する中小企業において、介護の問題を抱える従業員も存在しているだろうという仮説のもとに、今後の展開について議論を重ねました。 広く市民に問題を訴えていくことに着目し、報道機関へのアプローチを検討しましたが、実現には至りませんでした。現在は、プロジェクトチームのメンバーのつながりを活用して、市内の企業や青年会議所幹部等と関わりを持つことにより、市内企業やそこで働く人々が抱える介護に関する問題や事象をひとつでも多く拾い集めることを進めていくことに注力しています。中小企業等から聞こえてくる実事例等を聞き取りながら、経営者と共に介護に関する課題を解決できる仕組みづくりにまでつながることを展望しています。

## (3) 市内法人に呼びかけた合同勉強会の開催

宇治市福祉サービス公社と「ぼっぼとうじピョンの未来(あす)の宇治(ちいき)の福祉を考える合同プロジェクト」を行ってきましたが、平成30年度は他の社会福祉法人を巻き込んで展開をすべく、8月に勉強会を開催しました。

(宇治市福祉サービス公社との勉強会)

実施日	平成30年 8月27日(火) 18:00~20:30
目的	関係機関等への共同プロジェクトへの取組みの周知。 市内の社会福祉関係者と明日の福祉を考える上で、必要な情報提供と学びの機会、現状の課題を共有する時間とする。
場所	東宇治地域福祉センター
内容	<p>話題提供者</p> <p>社会福祉法人 こもれび 白土 直子氏  社会福祉法人 宇治福祉園 杉本 一久氏  北宇治地域包括支援センター 森下 良亮氏  当会 島崎 貴士</p> <p>コーディネーター 大谷大学社会学部教授 志藤 修史氏  グラフィックファシリテーター NPO 法人グローバル人材開発センター 肥後 祐亮氏</p>
参加者	市内法人・事業所：33名 行政：8名 府社協：1名 公社：約50名 当会：22名
実施して	市内福祉法人にも呼びかけ、当日参加も含め100名を超える参加者がありました。話題提供のあと、参加者とのやり取りを、グラフィックファシリテートを活用し、まとめていただきました。初の試みでしたが、話題提供の内容を瞬時にまとめていただくことで、参加者も話題提供者も対話を深めることができました。



(合同勉強会の様子)

## 16. そのほか関係機関のネットワークへの参画



そのほか、宇治市等が進めている関係機関への会合に役職員が出席し、当会の「協議会」としての役割を發揮します

### (1) 地域包括ケアシステムの構築に向けた関係機関との連携、協議への参加

平成 24 年度より、地域包括支援センター主催で、地域住民と関係者との連携や地域づくりを目的として、圏域ごとに「小地域包括ケア会議」（年 3 回）が開催されています。また、総括をする会議として、宇治市健康生きがい課主催で「地域包括ケア会議」が設けられています。圏域ごとの会議には、学区福祉委員会担当職員を中心に、生活支援コーディネーターも参加をしています。

#### (地域包括ケア会議の出席)

実施日 (場所・参加職員数)	①平成30年6月6日(水) 14:00~16:00 ②平成31年2月6日(水) 14:00~16:00(欠席)
参加目的	高齢者支援を基軸にした地域福祉の推進と全市的な取組みの情報交換
参加して	年に2回の会合の中で、宇治市全域の地域包括ケアシステムの状況確認が主になっています。その中で、当会の役割をどのように見つけ、地域住民とともに地域福祉を進めるための取組みとどうリンクさせていくかが課題です。

#### (小地域包括ケア会議の出席)

実施日 (圏域ごと)	東宇治北	①平成30年 7月 4日(水) 15:00~16:00 ハーモニー東風館(プレ) ②平成30年 7月18日(水) 14:00~16:00 ハーモニーやまはた ③平成30年10月12日(金) 10:00~11:00 ハーモニー東風館(プレ)(生活支援コーディネーター1名参加あり) ④平成30年10月29日(月) 14:00~16:00 コミュニティワークこはた館(生活支援コーディネーター1名参加あり) ⑤平成30年11月20日(火) 9:30~12:00 ハーモニー東風館 ⑥平成31年 1月11日(金) 10:00~12:00 ハーモニー東風館(プレ) ⑦平成31年 1月23日(水) 13:30~15:00 河原青少年センター
---------------	------	---



	東宇治南	<p>①平成30年 9月 3日(月) 14:00~16:00 東宇治地域福祉センター(生活支援コーディネーター2名参加あり)</p> <p>②平成30年11月 1日(木) 13:30~15:00 東宇治地域福祉センター(生活支援コーディネーター2名参加あり)</p> <p>③平成31年 1月17日(木) 13:30~16:00 東宇治地域福祉センター</p>
	中宇治	<p>①平成30年 9月20日(木) 14:00~15:30 宇治市福祉サービス公社中宇治事業所(生活支援コーディネーター2名参加あり)</p> <p>②平成30年12月19日(水) 14:00~16:00 宇治市福祉サービス公社中宇治事業所</p> <p>③平成31年 2月20日(水) 14:00~16:15 宇治市福祉サービス公社中宇治事業所(生活支援コーディネーター1名参加あり)</p>
	北宇治	<p>①平成30年 6月22日(金) 13:15~15:15 GT 槇島中央集会所</p> <p>②平成31年 2月21日(木) 13:55~15:55 宇治市中畑集会所</p> <p>③平成31年 3月 4日(月) 13:00~15:00 南陵南集会所(生活支援コーディネーター3名参加あり)</p>
	西宇治	<p>①平成30年 8月29日(月) 14:00~16:00 西小倉地域福祉センター(生活支援コーディネーター2名参加あり)</p> <p>②平成30年 9月19日(水) 10:00~11:30 西小倉地域福祉センター</p> <p>③平成30年10月17日(水) 10:00~12:00 西小倉地域福祉センター</p> <p>④平成30年10月26日(金) 9:30~13:30 西小倉地域福祉センター</p> <p>⑤平成30年12月21日(金) 10:00~12:00 西小倉地域福祉センター</p>
	南宇治	<p>①平成30年10月16日(火) 13:30~16:30 平盛デイサービスセンター(生活支援コーディネーター1名参加あり)</p> <p>②平成30年11月20日(火) 13:30~15:00 平盛デイサービスセンター(生活支援コーディネーター1名参加あり)</p> <p>③平成30年12月 4日(火) 13:30~15:00 平盛デイサービスセンター(生活支援コーディネーター1名参加あり)</p>
参加目的	高齢者支援を基軸にした地域福祉の推進	
参加人数	圏域の学区福祉委員担当か協議テーマに関連する担当者1名が参加。	
参加して	各地域の特色が出ている会議になっていますが、当会の役割がなかなか見出しにくいところが共通しています。また、平成29年度は、地域の支え合い仕組みづくり会議(地域版)(第2層協議体)との読み替えなどがあり、小地域包括ケア会議と協議体とのすみ分け、考え方に混乱がありました。	

## (2) 認知症疾患医療連携協議会

3カ月に1回第3金曜日の午後、洛南病院にて開催されており、出席しています。主に、認知症カフェや相談の様子などの報告がされています。

## (3) れもねいど推進協議会

宇治市の「認知症の人にやさしいまち・うじ」の実現に向けた、認知症アクションアライアンス「れもねいど推進協議会」に参加しています。

### (れもねいど推進協議会)

実施日 (場所・参加職員数)	①平成30年 6月25日(月) 15:00~16:30 ②平成30年10月 1日(月) 15:00~16:30 ③平成31年 1月22日(火) 15:00~16:30 ④平成31年 3月26日(火) 15:00~16:30
参加目的	れもねいど加盟団体としての認知症の人にやさしいまち・うじ実現に向けた取組みへの参加協力
参加して	当事者の声を大切にされながら進められる取組みは、他の取組みにも大いに参考になります。ボランティア活動には福祉委員関係者も多くかかわっており、改めて、当会が取り組んできた学区福祉委員会の取組みをはじめとする地域福祉の推進が、住民参加で進められている点も、当会にとっても力になります。

## (4) 宇治市自立支援協議会 こども部会への参加

宇治市自立支援協議会は、市内の障がい者支援に関わる人たちで構成されており、当会は身体障がい者デイサービス事業所として、「はたらく部会」に参加してきましたが、平成30年度は諸事情により参加を見合わせています。また、こども部会には、地域共生社会推進事業のかかわりの中で、年度途中より参加を始めました。

## (5) 災害支援

平成30年度は、大阪北部地震(6月18日)や台風21号(9月4日)などの自然災害がありました。当会からは、平成30年7月豪雨災害の支援で京都府宮津市、岡山県倉敷市へ職員を派遣しました。

### ①京都府宮津市

京都府市町村社協連合会の協定に基づき、平成30年7月13日(金)~15日(日)に宮津市に職員を1名派遣しました。連休のボランティアバスの対応のほか、ニーズ調査に携

わかりました。空き家が多く、ニーズ調査が進みづらかったり、支援を遠慮する人の存在なども浮き彫りになりました。空き家の課題は、宇治市でも想像されることから、改めて日常生活の中にあるニーズとの関連性を考えさせられました。また、熱い時期で熱中症対策なども日々必要な状況でしたが、そのような中、小学生が保護者の故郷でもある宮津での災害ボランティアに保護者同伴で参加される姿もあり、「保護者の私よりも、思うことがあったようで」と小学生が主体的に参加された様子をうかがうこともでき、災害ボランティア活動を通じて、次世代にも助け合いが繋がっていることを知る機会になりました。

## ②岡山県倉敷市

平成30年7月豪雨災害は、中国四国地方、近畿、東海地方にもまたがる広範囲の被害がありました。高梁川、小田川が決壊した岡山県では岡山市や総社市等7か所で災害ボランティアセンターが設置されました。倉敷市内の真備地区は人口の8割が被災し5,000棟を超える浸水被害が発生し、7月11日に倉敷市災害ボランティアセンターが設置されました。近畿ブロック府県・指定都市社協被災地支援連絡会議の調整により、8月5日（日）～8月9日（木）（第5クール）まで倉敷市災害ボランティアセンターへ職員を1名派遣しました。派遣先では本部ニーズ班に配属され、主に送迎ボランティア、重機ボランティア、車両ボランティアの調整およびこれまでの書類整理、データ打ち込み等に携わりました。

### 第3章 法人運営の強化

当会の基盤を支えるための財源、役職員の資質向上、体制の強化に努めます。

特に、共同募金運動については、平成29年度に組織改編を行い、当会の会員募集とともに大切な「地域福祉活動財源」としての運動性をさらに高めます。

#### 1. 会員募集の増強



当会事業運営の基盤である会員募集の強化を図るため、役員、事務局職員が連合町内会等への会合に参加して住民会員募集への協力依頼を行うことを始め、様々な活動場面で会員募集について広報しました。しかし、自治会・町内会を取り巻く状況が難しくなっている中で、取り組みにご協力いただくこと自体が難しいなど、ご協力いただける世帯の減少などもあり会員募集にかかる状況は厳しさを増しています。

しかしながら、住民や市民による身近な地域の福祉活動を支えるために、引き続き学区福祉委員会と連携し、丁寧に町内会・自治会等に理解と協力を求めていくことを継続していく必要があります。

(平成30年度 会員募集の状況) (単位 円)

	当会の会費・寄付金
平成28年度	14,314,954
平成29年度	13,921,372
平成30年度	12,991,148

(平成30年度 会員種別ごとの状況)

(単位 円)

	住民会費	寄付金	賛助会費	事業所会費	団体会費	施設会費	特別賛助会費
平成28年度	9,535,500	1,780,015	220,500	954,000	563,800	305,000	956,139
平成29年度	9,261,000	1,726,803	233,769	972,000	594,000	295,000	873,800
平成30年度	8,724,500	1,539,775	150,572	948,500	534,901	308,000	784,900

#### 2. 1㎡のできる社会貢献(自動販売機設置事業)の推進



企業等の社会貢献を進める観点から様々な法人や事業所、地域の学区福祉委員会等のご協力を得ながら飲料用自動販売機の増設を行いました。平成30年度は設置先様の都合等にもより3台の撤去があった一方で、新たに5台の設置を行い、総数は20台となりました。引き続き、自動販売機の設置場所を提供いただけるように福祉施設、地域住民の皆さまや、企業様等への協力依頼を行います。

## (自動販売機手数料収益実績)

(単位：円)

	設置場所	1年間の総額
1	愛の郷（玄関前）	51,293
2	愛の郷（地域交流室）	40,817
3	(株)ミヤモト	170,722
4	巨椋公会堂	163,486
5	開地域福祉センター	90,479
6	東宇治地域福祉センター	200,810
7	山城福祉会（アクトパル宇治臨時駐車場）	72,599
8	桑田建設	112,311
9	リエゾン宇治おおくぼ	93,659
10	リジェール柳田	187,313
11	マークアップ大久保	97,084
12	デイサービスみやび	103,909
13	ユニチカユニオン宇治	181,462
14	木幡公民館	72,480
15	ハーモニー東風館	53,115
16	広野公民館	20,659
17	総合福祉会館	21,892
18	あさくら診療所	126,976
19	まごころ西宇治	59,928
20	神明神社	50,520
21	地域福祉支援センター宇治小倉	22,965
22	宇治市役所西側駐輪場	35,712
23	個人私有地（西笠取）	28,496
合 計		2,058,687

No.1、2、7は年度途中にて撤去、  
No.19～23：平成30年度新規設置

## (自動販売機設置事業の推移)

年度	台数	金額（円）
平成28年度	14	1,076,919
平成29年度	18	1,715,830
平成30年度	23	2,058,687

### 3. 寄付金の受け入れと「ふれあい基金」「ボランティア基金」 「災害時支援活動準備金」の適正運用

様々な方からの寄付の受入れ及び「ふれあい基金」「ボランティア基金」の運用による財源確保に努めました。

(寄付(物品)の推移) (下段:円)

年度	ふれあい基金寄付	災害時支援活動準備金※1	指定寄付	寄付物品
	件数・金額	件数・金額	件数・金額	件数・内容
H28	24件 38,623,552	2件 18,424	2件 120,000	11件 デジカメ、車いす、プロジェクター 他
H29	14件 1,075,237	1件 10,571	2件 110,000	8件 座布団、お米 20 kg、クリスマスケーキ 30個 他
H30	15件 903,303	3件 19,200	2件 110,000	3件 未使用切手、クリアファイル

※会館窓口ふくろう募金等、複数回寄付先は1件とカウント。

※災害時支援活動準備金は、住民会費の2%分を含まず、指定寄付として受けた分のみ掲載。

(各基金運用実績) (単位:円)

年度	ふれあい基金 (196,974,993円)			
	運用益	基金積立	基金取崩し	基金額
平成28年度	37,662,656	38,667,352	0	180,734,938
平成29年度	1,019,830	21,564,757	7,335,000	194,964,695
平成30年度	889,163	2,010,298	0	196,974,993

年度	ボランティア基金 (121,788,928円)	
	運用益	基金額
平成28年度	6,856,629	121,788,928
平成29年度	317,049	121,788,928
平成30年度	319,042	121,788,928

#### 4. 宇治市共同募金委員会の運営と赤い羽根共同募金・

#### 歳末たすけあい募金運動への協力

10月1日から3月31日（期間延長を実施）まで展開される赤い羽根共同募金、12月1日から12月31日まで展開される歳末たすけあい募金運動を広く市民に周知しました。広報紙に全面的に赤い羽根コラボ助成事業とHot!ふれあいサロン助成事業の創設（本会から宇治市共同募金委員会への移管）を掲載し、赤い羽根共同募金の使途を明確にし、寄付文化の醸成に努めました。

様々な方法で、民間保育園や学校を中心にした子どもからボランティア活動者、高齢者まで、あらゆる世代に募金協力を呼びかけました。

また、宇治市共同募金委員会の事務局として、運営委員会（7月5日、9月13日、3月22日）、募金推進委員会（7月30日、9月21日）を開催しました。より運動性を高めることと、共同募金の配分の透明性を担保するために、新規に審査委員会（5月6日、6月29日、3月8日開催）を設置し、宇治市における福祉活動の資金需要等、配分計画の議論を重ねました。

（募金実績）

（単位：円）

	一般募金	歳末募金	合計
平成28年度	12,010,224	8,237,969	20,248,193
平成29年度	11,394,875	7,899,845	19,294,720
平成30年度	10,677,427	7,912,127	18,589,554

#### 5. 会務の運営



正副会長会（三役会）、理事会、評議員会、監査、評議員選任・解任委員会を適宜開催しました。

（理事会・評議員会の開催状況）

理 事 会	第1回：4月23日（月）9：30～10：45 出席理事11名／出席監事0名 ①公募型地域福祉活動支援事業助成金交付要綱の制定について ②評議員会の開催について
	第2回：5月17日（木）9：30～12：10 出席理事13名／出席監事0名 ①補欠評議員の選任候補者の推薦について（3名） ②評議員選任・解任委員会の開催について ③平成29年度事業報告について ④平成29年度社会福祉事業拠点区分・収益事業拠点区分資金収支決算について ⑤第2層生活支援コーディネーター業務委託に関する

	<p>公益型プロポーザルの参加について</p> <p>⑥平成30年度社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正について</p> <p>⑦第4次地域福祉活動計画要綱の制定について</p>
	<p>第3回：8月24日（金）13：30～15：35 出席理事13名／出席監事0名</p> <p>①委員会委員の報酬等に関する規程の一部改正について</p> <p>②第4次地域福祉活動計画策定委員会設置要綱の一部改正について</p> <p>③生活福祉資金貸付調査委員会設置規程の一部改正について</p> <p>④公募型地域福祉活動支援事業審査委員会設置要綱について</p>
	<p>第4回：10月12日（金）13：30～15：50</p> <p>出席理事10名／出席監事0名／出席第三者委員（オブザーバー参加）／3名</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>宇治市議会全員協議会における法人自己評価報告の際の人件費支出に係る指摘事項及び労働基準法第36条違反状態について</p> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <p>平成30年度における時間外勤務の実態をふまえての当面の対応について</p> <p>平成31年度以降の時間外勤務の削減及び有給休暇取得に向けて働く環境向上委員会への調査、審議の要請について</p>
	<p>第5回：11月29日（木）10：00～12：05 出席理事11名／出席監事1名</p> <p>①職員給与規程の一部改正について</p> <p>②平成30年度社会福祉事業拠点区分資金収支第2次補正予算について</p> <p>③第167回評議員会の開催について</p>
	<p>第6回：2月15日（金）10：00～11：45 出席理事11名／出席監事1名</p> <p>&lt;専決報告&gt;</p> <p>①職員就業規則の一部改正について</p> <p>②嘱託職員に関する規程の一部改正について</p> <p>③臨時職員に関する規程の一部改正について</p> <p>④福祉サービス利用援助事業生活支援員に関する規程の一部改正について</p> <p>⑤職員の服務に関する規程の一部改正について</p> <p>&lt;議案&gt;</p> <p>①職員給与規程の一部改正について</p> <p>②指定寄付金の配分について</p> <p>③第168回評議員会の開催について</p>
	<p>第7回：3月12日（火）10：00～12：00 出席理事11名／出席監事0名</p> <p>&lt;議案&gt;</p> <p>①平成30年度社会福祉事業拠点区分資金収支第3次補正予算について</p> <p>②2019年（平成31年）度事業計画案について</p> <p>③2019年（平成31年）度社会福祉事業拠点区分・収益事業拠点区分資金収支予算案について</p>
	<p>第8回：3月28日（木）13：15～13：30 出席理事15名／出席監事1名</p> <p>&lt;議案&gt;</p> <p>①監事の選定について</p>
評議員会	<p>第1回 定時評議員会（第166回）：6月8日（金）13：30～15：50</p> <p>出席評議員34名／出席理事7名／出席監事0名</p> <p>&lt;議案&gt;</p> <p>①平成29年度事業報告について</p>



②平成29年度社会福祉事業拠点区分・収益事業拠点区分資金収支決算について ③平成30年度社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正について
第2回（第167回）：12月21日（金）10：00～11：45 出席評議員26名／出席理事9名／出席監事0名 <議案> ①委員会委員の報酬等に関する規程の一部改正について ②平成30年度社会福祉事業拠点区分資金収支第2次補正予算について
第3回（第168回）：3月28日（木）14：00～15：50 出席評議員30名／出席理事15名／出席監事1名 <議案> ①監事の選任について ②平成30年度社会福祉事業拠点区分資金収支第3次補正予算について ③2019年（平成31年）度事業計画案について ④2019年（平成31年）度社会福祉事業拠点区分・収益事業拠点区分資金収支予算案について

（評議員選任・解任委員会）

実施日	平成30年5月23日（水）10：00～10：10
出席者	評議員選任・解任委委員4名／出席理事1名
内容	①第1号評議員（1名）の選任、②第4号評議員（2名）の選任について

（期末監査）

実施日	平成30年5月14日（月）13：30～15：00
出席者	出席監事2名／出席理事1名
内容	①平成29年度 業務監査、②平成29年度 会計監査

6. 多角的な広報



地域福祉活動や当会の活動を知らない人たちに向け、当会活動や地域福祉活動・ボランティア活動に取り組んでいる団体、施設等の情報を広報紙・ホームページ等を活用して発信をしてきました。

(広報紙「社協だより」の発行)

実施日	①6月15日号 ②9月15日号 ③3月15日号
実施場所	市内約82,000世帯にポスティング
実施目的	当会事業の周知および各種団体、活動情報の集約と発信
内 容	<p>①特集：宇治市社協の重点活動 /平成29年度収支報告・平成30年度予算 /新規職員募集 /1㎡でできる社会貢献事業（自販機設置の取り組み）/宇治市老人センターサークル協議会・宇治ボランティア活動センター・宇治市介護者リフレッシュ事業からのお知らせ/平成30年度社協会費、ふれあい寄付金、災害時支援活動準備金協力一覧</p> <p>②特集：赤い羽根共同募金の活用（自閉症や知的障がい者への理解を拡げる活動） /宇治福祉まつりの開催、赤ちゃんボランティア募集/1㎡でできる社会貢献事業（自販機設置の取り組み）/介護者リフレッシュ事業、宇治市老人センターサークル協議会からのお知らせ/うじピヨンの地元に出かけよう(各種催し紹介)</p> <p>③特集：お互いさまの思いでつくる地域づくり～（宇治市生活支援体制整備事業）/福祉まつり実行委員募集/学区福祉委員募集/H31新春福祉のつどい報告/ふれあいサロン、赤い羽根コラボ助成金の事前PR/1㎡でできる社会貢献事業（自販機設置の取り組み）うじピヨンの地元に出かけよう(各種催し紹介)</p>
実施して	当会の事業広報と同時に各種団体活動の情報集約と発信など、社会福祉協議会の役割を担う意識を持ち発行しました。社協だよりへの記事掲載によりサークル活動への新たな参加者が増えたという声もいただきました。今後も各種グループの催しを市内全体にPRすることで、市民の地域福祉・ボランティア活動への関心を高められるよう発行を行います。

(月イチうじピヨンの〇〇な話の掲載)

実施日	毎月末（不定期）
実施目的	当会の認知度の向上および、市民に地域福祉・ボランティア活動を伝える。
内 容	<p>5月：赤い羽根共同募金の使いみち</p> <p>6月：心も身体も動かして、イキイキ暮らそう ～老人福祉センターサークルのご紹介～健康社交ダンス、琵琶窯陶苑</p> <p>7月：助け合いはハードルが高い！？～生活支援コーディネーターの視点から～</p> <p>8月：老人福祉センターサークルのご紹介～松涛会～ 介護予防で社会貢献～ボランティア活動に参加しませんか～</p> <p>1月：私たちが実習を通して学んだボランティア活動</p> <p>2月：宇治福祉まつりを通して感じた地域のつながり 計7回</p>
実施して	諸事情で、不定期掲載になりましたが、時々情報を、写真等を交えて広報をしています。今後も写真等を活用しつつ、地域情報の啓発に努めていきます。

※9月までは「洛南タイムス」、10月以降は「洛タイ新報」にご厚意で掲載をいただいています。

## 7. 地域福祉活動への感謝の気持ちを伝える「新春福祉のつどい」の開催

地域福祉活動に長年ご尽力いただいた個人や団体に対して、市内の福祉関係者が一堂に集い、その功績を称える場として平成31年1月26日（土）に「平成31年新春福祉のつどい」を開催しました。平成30年度の宇治市社会福祉協議会会長表彰受賞者は96名と2団体、感謝状贈呈者は7人、8団体です。

第2部のパネルディスカッションでは地域共生をテーマに行いました。

### （新春福祉のつどい）

実施日	平成31年1月26日（土）10:00～13:45
実施場所	パルティール京都
参加者	会長表彰・感謝状贈呈者 表彰状受賞者 2団体 96名 感謝状贈呈者 8団体 7名 参加者 317名（来賓 34名、受賞者 88名、一般 195名）
目的	年の初めにあたり、福祉関係者が一同に会し懇親を深めるとともに、地域福祉推進への決意を新たにするため開催しました。
内容	第1部：福祉功労者表彰・感謝状贈呈式典 第2部：パネルディスカッション「宇治から始める地域共生社会」 パネラー 青年の社会参加を応援する会実のり 黒川 美知子氏 平安断酒会 家族会 「みやび」 田辺 暢也氏 コーディネーター 首都大学東京 准教授 室田 信一氏 第3部：懇親会
実施して	日頃活動しておられる皆さんや当会への寄付者、自動販売機の設置協力者への感謝を表すことと、交流を大切にしています。第2部のパネルディスカッションでは、地域共生社会について、生きづらさをかかえる当事者像を明らかにすることを目的に開催しました。参加者ならびに参加者からつながった人から相談があり、改めて地域住民の間では相談する場所がなく困っておられる人の存在があること、相談場所を探している人を知っている福祉関係者がいることなどが明らかになりました。



（新春福祉のつどいでの表彰の様子）

## 8. 地域福祉活動の拠点としての宇治市総合福祉会館の管理運営

(指定管理事業)

総合福祉会館は、地域福祉活動の中核的立場であり宇治市から指定管理者として受託運営している総合福祉会館を三つのセンター機能（※）に留意し管理運営を行いました。

平成29年度との比較として、利用団体総数、団体利用者総数は増加しています。新たなサークルの立上げや社協だより等によりサークル員の募集広報を実施したことが要因と考えられます。一方、個人利用人数、浴室利用人数減となりました。特に浴室の利用は、故障等による休止の影響と考えられます。

## (総合福祉会館団体利用状況)

年度	開館 日数	1階利用計		2階利用計		3階利用計		合計	
		団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
H28	297	876	7,810	2,118	37,348	1,019	19,806	4,013	64,964
H29	297	831	7,493	2,173	38,206	1,117	19,162	4,121	64,861
H30	299	980	8,067	2,225	38,653	1,163	20,358	4,368	67,078

※1階：身体障害者福祉センター、2階：老人福祉センター、3階：福祉センター

## (老人福祉センター個人利用人数)

年度	男性	女性	合計
平成28年度	3,929	2,806	6,735
平成29年度	3,261	2,318	5,579
平成30年度	2,576	1,851	4,427

## (浴室利用者数)

年度	男性	女性	合計
平成28年度	3,195	1,952	5,147
平成29年度	2,764	2,107	4,871
平成30年度	2,214	1,849	4,063

## 9. 時代の変化に対応した取組みを進める体制の検討

社会情勢を鑑み、住民主体の地域福祉の推進を進める職員を育成するため、積極的に京都府福祉人材研修センターの研修を活用しました。その他、全国社会福祉協議会の研修にも参加をしています。

また、各自が自己研鑽に努めることを推奨することも積極的に取り入れ、自主研修制度（1

年間に参加費 2 万円までを支給する制度) を設けており、その活用においても 4 名の職員が利用しました。

また、職場内での全体研修も平成 29 年度から取り組んでおり、平成 30 年度は、全体研修として職場内での研修は 3 回開催しました。1 回は、職場内の働く環境を整えるための話し合いを行い、1 回は働き方改革について、もう 1 回は、新春福祉のつどいの第 2 部の動画を鑑賞しました。

社会福祉士の養成課程での現場実習においては、平成 30 年度は 5 校 5 名の実習生の受入れを行ったほか、積極的に社会福祉士の実習指導者の養成研修にも参加をしています。

平成 30 年度は、プロジェクト制度などによる提案はありませんでしたが、引き続き、全体の職員研修等を通じて時代に即した地域福祉実践のできる職員養成に努めていきます。



(職員研修の様子)

## 第4章 地域福祉推進のための基盤となる

### 第4次地域福祉活動計画の策定

第3章までの取組みを包括的に中長期的に進めていくための第4次地域福祉活動計画の策定を行うことを予定していましたが、取り組めなかったものが多くありました。

#### 1. 当会の「組織強化」計画の策定の検討



第3次地域福祉活動計画のふりかえりと第4次地域福祉活動計画の策定に合わせて、当会の組織強化計画についての検討も予定していましたが、実施できませんでした。特に、働き方改革などの時代の醸成に合わせた当会の地域福祉への支援のあり方も課題になってきているため、引き続き検討をしていきます。



#### 2. 第3次地域福祉活動計画のふりかえりと第4次の地域福祉推進のための計画策定

宇治市内の活動者同士のゆるやかなつながりを構築し、活動のヒントをお互いに考えあう機会として「うじピョンカフェ」（住民懇談会）を開催していましたが、平成30年度は、木幡地域懇談会をこの位置付けで展開しました。

また、これまで実施してきた「うじピョンカフェ」（住民懇談会）内容を踏まえ、第4次地域福祉活動計画につなげていくことになります。

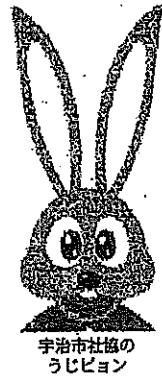


## 卷末資料

月イチうじピョンの〇〇な話



# 「チンパン」のうじまな話 59



このコーナーでは毎月1回、宇治市社会福祉協議会(宇治市社協)からの情報や心あたたまるエピソードなどをお伝えしていきます。

## 赤い羽根共同募金の使いみち

赤い羽根コラボ助成金

桜は瞬く間に葉桜に衣替えし、早くも新年度は1ヶ月が過ぎました。新たな暮らしが始まる方も少なくないこの時期、宇治市内の地域で活動する福

祉活動団体の皆さんからも、新たな年度の計画や企画についてお話を聞かせていただくことが多いです。そういう時期に活用されるのが、「赤

い羽根コラボ助成金」その名のとおり、皆さまからご協力いただいた赤い羽根共同募金の一部が姿を変え、助成金になっていくものです。この助成金をひとことで伝えると、宇治市で活動している(5名以上の)福祉活動団体を支援する助成金です。例えば「障がいや難病について、少しでも理解を求め、啓発活動をしたい」、「子どもたちが自由に安心して遊べる場づくりをしたい」、「ボ

ランティアグループの活動の幅をもっと広げたい」など、様々な想いを抱いている団体に、助成金という形で活動の支援を行っています。昨年度は宇治市内の84の取り組みなどに助成を行いました。助成金という形に姿を変えた赤い羽根共同募金は、活動を支援するエネルギー源になったわけです。

それだけではありません。赤い羽根共同募金が姿を変えたこの助成金は、いろんな「ご縁」を生み出すきっかけも果たしてくれます。助成金に関する相談を本会にいただく

と、相談された団体と本会との間に「ご縁」が生まれます。団体の活動を知ることができた本会は、新たな活動を多くの方に知らせをするなどして、新しい「ご縁」を作り出そうとします。助成金を受けた団体の活動が活発になると、その活動をきっかけにして、いろんな方同士「ご縁」が広がります。木々が色づく秋に、ご協力いただいている赤い羽根共同募金の一部は、季節がめぐって緑鮮やかな季節に「赤い羽根コラボ助成金」に姿を変え、宇治市内の福祉活動を活発にするエネルギーになり、様々なご縁を生み出すきっかけを与えてくれています。

【告知】宇治市の地域を良くする取り組みを応援する「赤い羽根コラボ助成金」の募集・受付を行っています。今月31日まで。要項や申込書は本会窓口を設置しているほか、ホームページ(<http://ujs-stako.net/>)にも掲載します。お問合せは宇治市共同募金委員会(事務局:宇治市社会福祉協議会 0774・22・5650)

# 月イチ「うじゅん」の「60」 「○○な話」



宇治市社協のうじゅん

このコーナーでは毎月1回、宇治市社会福祉協議会(宇治市社協)からの情報や心あたたまるエピソードなどをお伝えしていきます。

## 心も身体も動かして、イキイキ暮らそう!

宇治市老人福祉センターサークルのご紹介

宇治市老人福祉センターサークル協議会は、60歳以上の市民が各サークルの自主活動と緊密な連携を図り、広く社会福祉への貢献と学習活動の交流を深めることを目的としています。現在21サークルが活動しており、サークル会員の募集をしています。

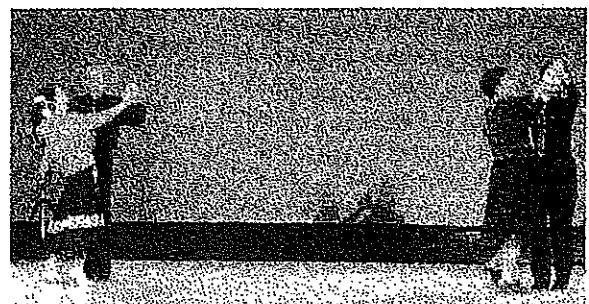
今回は、その中の二つのサークルをご紹介します。

**U・S・K 健康 社交ダンス会**

シルパールの皆様「健康社交ダンス」を楽しんでませんか。

リズムに乗りタンゴ・ワルツ・ルンバ等々ダンスは手足を動かす。脳の活性化に繋がる健康に良い運動のひとつではと、思われま

す。レッスンは、無くて、ダンスパーティーや9月には「宇治市



の文化ホール」で舞台発表会も有り、又宇治市老人福祉センターサークル協議会の毎年の行事である健康ウォーク・館外研修・カラオケ大会等々に自由参加出来る利点もあり、一年間を楽しく過ごせます。

どうぞ今までダンスをした事の無い方々も

一度見学にお越し下さい。会員一同大歓迎です。

練習日は毎週日曜日 午前10時～午後3時30分、第三水曜日午後1時30分～午後3時30分

**U・S・K 「琵琶窯陶苑」**

琵琶窯と聞くと、有名な窯元と思われるかもしれませんが、いやいや我々60～80歳代の素人集団サークルです。

土を捏ね、茶碗、湯のみ、お皿、花瓶、壺、小物の置物、中にはアクリルまで幅広く自分の好きなものを自由に作る事が出来て、本当におもしろいです。先生はおられません。先生は好きな先輩、作品づくりが上手な先輩達の手ほどきを受けています。形の無いものを、形のあるものに変えて、目的のものが出来上がったときの喜びは、大きいです。

陶器は、「素焼き」といって着色する為の仮焼きをしたあと、色と模様をつけ「本焼き」をして出来上がりです。この間約一ヶ月。出来上がったときの感激は、なんともいえません。

特に我が「陶苑」の特徴は、ゆっくりに考えゆっくりに作陶が出来

る事です。サークル会員が3つに分かれて毎週火曜日と金曜日、ひと月の内9時から4時までの日が2回、午前と午後だけの半日が2回で計4回です。

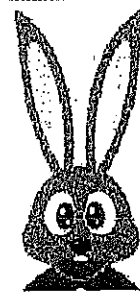
また、年2回(10月・3月)展示発表会があります。大勢の人に観て頂くのも作陶の励みにもなり勉強にもなります。自分の作ったオリジナル作品で、我が家の食事時の一杯は、格別ですよ。

皆さん、仲間に入って楽しくやりませんか。手先を使うし、頭を使って脳の活性化も体に良い事だと思っ

ています。一度見学にいらしてください。お待ちしています。

問い合わせは宇治市老人福祉センターサークル協議会(宇治市社会福祉協議会事務局、☎22・5650)まで。

# 「うじゅん」の「61」 「TOON」な話



宇治市社協のうじゅん

このコーナーでは毎月1回、宇治市社協 会福祉協議会(宇治市社協)からの情報 や心あたたまるエピソードなどをお伝え していきます。

## 助け合いはハードルが高い？!

生活支援コーディネーターの視点から

「○○さん、今日はどうやらながら席に着か うしたはるんやろ。」  
「○○さんは、もうちよっとしたら来はるよ。」  
「おはようござん。ー」  
「ちよっと手を貸して、と、上がり権で支

るサロンの何気ない日常の1コマです。

サロンは、本会が進める事業のひとつです。身近な地域で孤立を防ぎ、互いに支え合い、助け合える仲間づくりを進めるための居場所事業です。地域には独居の高齢者も多く、市内には90か所を超える高齢者が集うサロンがあります。このサロンを利用する独居高齢者が笑顔でおっしゃるには、「顔の見える関係があればこそ、地域の中で心配してもらえ、安心して生活につなが

っています。』とのこと。人と人とのつながりというものは、誰かのことを心配し、ちよっと気にすることから始まるのかなと思えます。誰かのことをちよっと気にしたり、心配することから困りごとが見えてくるのかもしれない。

昔々、まだまだ電話が普及していない頃に近所に電話を借りに行っていたときに、「何か困っていることでもあるんか」と心配してくる人がいたり、お風呂をもらいにお願いする人に行くと、「こたつに入りお茶を飲みながら、世間話から色々な相談ごとをしたり、コンビニが無い頃には、

えつつある、ラジオ体操でも、いつも来てくれるメンバーの顔が無いときは、「今日は来てないな。なんか聞いてるか?」と気にして帰る人が出てきて、「帰りに寄ってみるわ」これが、助け合いの「泉の源」になっていくのではないのでしょうか。

今、私たちがこれから共に支え合って生きていくには、何が必要なのでしょう。あなたのまわりに、何があつたらいいと思いますか。あなたが支えた地域が、あなたを支えます。今一歩、地域に目を向けてみませんか。

生活支援コーディネーターは、その調整役であり、平成29年度に宇治市から委託を受けて事業を進めています。

「朝にお風呂入って、サロンで顔見かけなかったら、誰かは心配してくれるやろ。」と。これは、市内のどあ

「おしょうゆ貸してくれへん」とか、「お砂糖を少し貸して」とか、助け合いを普通にやっていると、「今日は来てないな。なんか聞いてるか?」と気にして帰る人が出てきて、「帰りに寄ってみるわ」これが、助け合いの「泉の源」になっていくのではないのでしょうか。

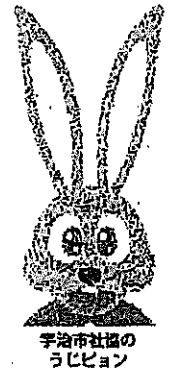
介護保険制度が始まり、たくさん施設もでき、それぞれにサービスを受けられるようになり、安心して生活が送れるようになり、ただ、超高齢社会となり、介護保険制度でできること、できないことが出てきました。世の中には、介護保険制度以外にも、たくさん便利なシステム

ができたことで、人同士の助け合う力が弱くなり、人とのつながりも薄くなってしまっています。

介護保険制度の枠組みの中で対応していくことを打ち出しています。総合事業(介護保険

法では、「介護予防・日常生活支援総合事業」として定められています。は、市町村が中心となって、地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することで、地域の支え合い体制づくりを推進し、要支援者等の方に対する効果的かつ効率的な支援等を可能とすることを目指すものです。

# 月イチ「うじまん」の⑥2 「○○な話」



このコーナーでは毎月1回、宇治市社会福祉協議会(宇治市社協)からの情報や心あたたまるイベントなどをお伝えしていきます。

## 宇治市老人福祉センター サークル協議会のご紹介

宇治市老人福祉センターサークル協議会は、60歳以上の市民が各サークルの自主活動と緊密な連携を図り、広く社会福祉への貢献と学習活動の交流を深めることを目的としています。現在21サークルが活動しており、サークル会員の募集をしています。

今回は、その中の一

### USK「松涛会」

大河ドラマにいつも出てくる「能」のシーン、秀吉や家康が愛した「能」は、今から60年以上もさかのぼる室町時代に将軍義満の支援を受けた世阿弥によって完成されたといわれています。日本の

伝統芸能の代表的なものであり、今や「ユネスコ無形文化遺産」にも登録されています。その「能」の台本であり、そこから「狂言と囃子」をはずしたものを「謡曲」または「謡(うたい)」といいます。

「謡曲」と聞くとたいがいの方は婚礼の祝い唄「高砂」の一節を思い出されるでしょう。厳かで晴れやかな気分になるいい謡です。ところが反対に、謡は何か暗く、うっとうしいと感じておられる方も多いと思います。曲目によって色々なものがあって、武士や鬼以外にも、きれいな女の人も登場して、華やか

なものなのです。現在二百数十曲あるといわれる曲数の約3分の1は京都が舞台となっていてのもう一つのことです。

私達の謡曲サークルは、「松涛会(しょうとうかい)」と言いまして、昭和58年の総合福祉会館の創設とほぼ同時期に同好の有志に



よって結成35年を経て現在では16名が、毎月第1水曜日と第3木曜日の2回の例会を楽しくんでいます。さらに正月には「新年初謡会」、夏は「夏仙会」で親睦を深め、又宇治市文化センターで行われる宇治市老人福祉センター市民文化芸術祭の発表会にも毎年

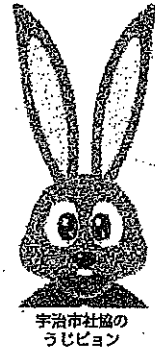
出演させていただき好評をいただいています。メンバーは、長い経験者から最近始められた方まで色々で男女半々となっています。会をします。会としては、これから始めようとする方や初

心者の方に対して例会とは別に日を設けて稽古会や、気軽に教えていただける先生のご紹介をしていく計画を進めています。

「謡曲」は、お腹の底から力いっぱい声を出しますので健康的にもよく、最近では女性のファンも増えてきました。大きな声を出して謡っているだけで「謡曲」と思わないでください。源氏・平家両物語をはじめ歴史の一端にも触れることが出来る素晴らしい空間なのです。

興味を持たれましたら是非一度例会の見学にお越しください。お待ちしております。◆問い合わせ先：宇治市老人福祉センターサークル協議会(宇治市社会福祉協議会事務局) ☎22・5650

# 月イチ「うじゅん」の「63」 「うじゅん」な話



このコーナーでは毎月1回、宇治市社会福祉協議会(宇治市社協)からの情報や心あたたまるエピソードなどをお伝えしていきます。

## 介護予防で社会貢献

ボランティア活動に参加しませんか

宇治市社会福祉協議会では、毎週1回、市内20か所で宇治市の委託を受けて介護予防普及啓発事業(通称Bリハ)に取り組みでいます。この取組みでは、約10名の利用者とそのボランティアが参加し、そ

の事業運営をボランティアとともに行っていきます。地震があった6月18日の月曜日は、活動が市内4か所で予定されており、全ていつも通り実施をさせていただきました。活動の茶話の時間には「おうちも大丈夫だったか」「怖かったなあ」「余震もあるんやろうかな」などと口々にお話をされました。介護予防は身体の健康だけでなく、心の交



流なども大切な要素となっています。Bリハは、利用者にとってもボランティアにとっても、不安なことも打ち明けられる場所。お互いが心配したり、気にかけてあげることが

きる関係がつけられていきます。これは、ボランティアの皆さんと一緒に運営をしているからこそ、つくりあげられる場所なのだと感じています。

Bリハのボランティアの皆さんのなかかわりも多様です。机やマイク等のセッティングをする人、司会進行が得意な人、手作りやゲームを考える人、それと一緒に楽しむ人、利用者のお話を耳を傾

ける人、お茶を用意する人。ボランティアの皆さんが週1回参加されることで、ご自身も健康で、社会に貢献できるとしてイキイキと活動されています。そして、それを本会のコーディネーターと看護師がサポートしています。

ボランティア活動によって、自分の暮らすまちで、人と交流ができ、社会貢献ができる活動にあなたも参加してみませんか。問い合わせ先 宇治市社会福祉協議会(☎22・5650)まで。

# チンゲンサロンの「うじ」



このコーナーでは毎月1回、宇治市社会福祉協議会(宇治市社協)からの情報や心あたたまる「うじ」の下書きをお伝えしていきます。

## 私たちが実習を通して学んだボランティア活動

京都ノートルダム女子大学  
大阪人間科学大学  
日本福祉大学  
前川 綾乃  
栗本 皓章  
小嶋 智穂

本会では、社会福祉士の資格を取得するために現場実習を行う学生に、生の皆さんを年間数名受け入れています。今月は、その実習生の

方より実習を通じての想いをお伝えします。

……【本文】……

私たちは、宇治市社協で実習させていたただいて約2週間が経ちました。

2週間の実習プログラムで、私たちが最も印象に残った取組みは『ボランティアマッチングサロン』(以下、マッチングサロン)です。ところで皆さんはマ

ッティングサロンをご存知でしょうか。マッチングサロンとは、奇数月の第2日曜日の午後、福祉会館で催されるボランティアの力を必要とする方々とボランティアをしたい方々を『うじ』ことを目的とした事業です。マッチングサロンは、宇治ボランティア活動センター(以下、ボラ活センター)が主催しています。

私たちが参加させていただいたマッチングサロンでは、ボランティアをしたいと思う方々が、ボランティアを求める方々とお話をしておられるところを目

にし、まさに、人と人がつながるきっかけだと感じました。ボランティア経験のあるボラ活センターの方々が中心となり、開催されているので気軽に足を運べる場です。そのため、初めて来られる方々でも、お茶を飲みながら話をしやす

い雰囲気です。ボラ活センターの方々は、ボランティアをしたい方々に「何をしたいかではなく、何ができるのか」を聞く事を心がけておられます。ボラ活センターの方々は、参加者に気軽に利用して欲しいという気持ちで活動しておられます。

私たちは、社協での実習を通して、地域の方々が自発的に活動するために、地域活動におけるボランティアが仲間の輪を広げる必要があることを知りました。私たちがボランティアと聞いてイメージする年齢層よりも幅広く、誰もが気軽に足を運べる場があることを知りました。

業としては、赤ちゃんがボランティアとして参加する『中学生と赤ちゃんのふれあい交流』があり、中学生が命の重みや温かさを肌で感じ、子育て中の親の想いを聞く中で自分自身も大切に育てられていくことを実感しました。

私たちは、社協での実習を通して、地域の方々が自発的に活動するために、地域活動におけるボランティアが仲間の輪を広げる必要があることを知りました。私たちがボランティアと聞いてイメージする年齢層よりも幅広く、誰もが気軽に足を運べる場があることを知りました。

業としては、赤ちゃんがボランティアとして参加する『中学生と赤ちゃんのふれあい交流』があり、中学生が命の重みや温かさを肌で感じ、子育て中の親の想いを聞く中で自分自身も大切に育てられていくことを実感しました。

私たちは、社協での実習を通して、地域の方々が自発的に活動するために、地域活動におけるボランティアが仲間の輪を広げる必要があることを知りました。私たちがボランティアと聞いてイメージする年齢層よりも幅広く、誰もが気軽に足を運べる場があることを知りました。

業としては、赤ちゃんがボランティアとして参加する『中学生と赤ちゃんのふれあい交流』があり、中学生が命の重みや温かさを肌で感じ、子育て中の親の想いを聞く中で自分自身も大切に育てられていくことを実感しました。



私たちは実習での経験を基にそれぞれの暮らす地域の中で、出来ることを見つけ活動していきたいと思っています。【写真：宇治ボランティア活動センターの運営委員会に参加する実習生たち】

# イチうじペン。65 「うじペン」な話



このコーナーでは毎月1回、宇治市社会福祉協議会(宇治市社協)からの情報や心あたまるエピソードなどをお伝えしていきます。

## 宇治福祉まつりを通して感じた地域のつながり

佛教大学 大隅 沙矢  
龍谷大学 杉村 歩美

本会では、社会福祉のために現場実習を行う学生の資格を取得するた 生の皆さんを年間に数

名、受け入れていきます。今月は、その実習を通じての学生たちの思いをお伝えします。

### 【本文】

私たちが実習生として宇治市社会福祉協議会にお世話になって三週間が経ちました。実習では社協が関わっている各事業に参加させていただきました。その中で特に印象に残

ったのは宇治福祉まつりです。

宇治福祉まつりは赤い羽根共同募金の配分金を使って開催されています。福祉施設など関係者の方々が集まり、模擬店や体験ブースを開設することで自分の住むまちの活動や団体に興味をもってもらうだけでなく、参加団体同士や団体と個人とのつながりをつくり、地域福祉活動を盛り上げるきっかけとしています。私たちは宇治市共同募金委員会として赤い羽根共同募金の啓発を行いました。

私たちのブースに置かれていた、きのこ型のオプシェは民間の子ども園、保育園で集めた募金箱を使い、前日準備で宇治市の保育士の方々と共に作成をしました。当日は子供たちが自分たちで集めた募金箱を探していると、光景も見られました。ブースでは来てもらった方に募金の協力を働きかけ、協力した子供たちには風船や赤い羽根を渡しました。

私たちのブースに置かれていた、きのこ型のオプシェは民間の子ども園、保育園で集めた募金箱を使い、前日準備で宇治市の保育士の方々と共に作成をしました。当日は子供たちが自分たちで集めた募金箱を探していると、光景も見られました。ブースでは来てもらった方に募金の協力を働きかけ、協力した子供たちには風船や赤い羽根を渡しました。

生のごも使用道こそ知らないものの赤い羽根をフリリユックに入っていたことを思い出しました。

私たち自身、子供のころから赤い羽根共同募金の存在を知っていましたが、実習を通じて募金がどのようなことに使われているかを初めて知りました。より多くの人に赤い羽根共同募金の使い道を知ってもらい、身近に感じてもらうためにはどうすればいいか考えるきっかけになったと思います。



う一つの手段として宇治福祉まつりは、さまざまな世代に対し赤い羽根共同募金をより身近に感じてもらう、募配分金を使ったイベント

下は、住民同士の間で、住み手が生まれるきっかけになると思います。残り少ない期間ですが、地域のつながりをつくるために宇治市社協が意識していることを考えながら実習に取り組みたいと思います。